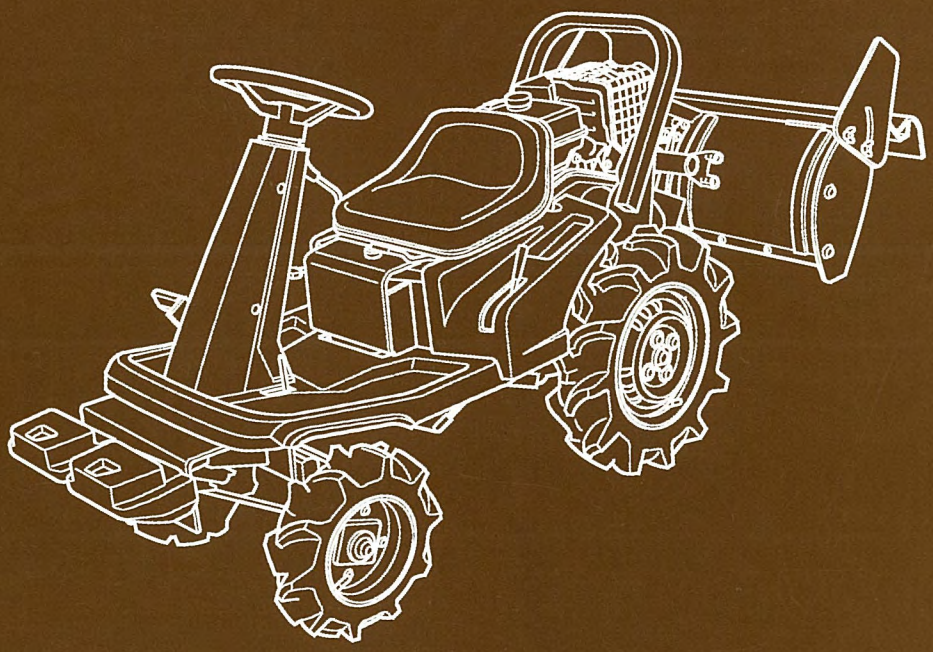
HONDA
汎用製品

乗用耕うん機

FJ900

取扱説明書

ラッキーくるり



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

- **一般公道では使用できません。**
- **水田では使用できません。**
- **夜間作業はできません。**
  （作業灯の装備がされていません）

はじめに

この取扱説明書は、商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。
本機を運転する前に本書をよくお読みいただき、十分理解してからご使用ください。
取扱説明書はわからない事があったときに読むことができるよう**大切に保存**し、日常の手引きとしてご活用ください。
なおこの取扱説明書では、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

この取扱説明書は

- 作業をするときは、必ず携帯してください。
- 本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
- 紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店またはHonda汎用営業所にご注文ください。

目　　次

安全作業のお願い …… 5
安全にお使いいただくためにこれだけは必ず守りましょう …… 6
安全ラベル …… 22
フレーム号機とエンジン号機 …… 24
各部の名称と取扱いをおぼえましょう …… 25
走行装置 …… 26
1．エンジン スイッチ …… 27
2．エンジン回転調整レバー …… 27
3．燃料コックレバー …… 28
4．ブレーキ ペダル …… 28
5．駐車ブレーキ レバー …… 29
6．変速レバー …… 30
7．ニュートラル リリース ピン …… 31
8．シート スライド調節レバー …… 32
作業機操作装置 …… 33
1．油圧リフト レバー …… 33
2．PTO軸カバー …… 35
3．PTOレバー …… 35
運転する前に点検しましょう …… 36
本機の回りを歩いて …… 36
メンテナンス カバーを開けて …… 37
運転席に座わって …… 37
点検項目 …… 38
1．タイヤの空気圧、亀裂、損傷、締付けボルト・ナットのゆるみ点検 …… 38
2．エンジン オイルの点検 …… 38
3．エア クリーナ（空気清浄器）の点検 …… 39
4．ハンドルの点検 …… 40
5．ブレーキ ペダルの点検 …… 40
6．燃料の点検 …… 41
7．変速機オイルの点検 …… 42
8．駐車ブレーキの点検 …… 43
9．バッテリ液の点検 …… 43
10．ロータリの点検 …… 44
運転のしかた …… 45
エンジンのかけかた …… 45
暖気運転 …… 47
発進・走行のしかた …… 48

停車・エンジンの停止のしかた……49
旋回のしかた……51
坂道での運転のしかた……52
ほ場への出入り時の注意……53
標準ロータリの取扱い……54
ロータリの着脱……54
爪軸の取外し……57
爪軸の取付け……58
なた爪と爪軸の組付け……59
耕深調整……60
ロータリの落下防止……61
耕うんの方法……63
アタッチメントの使用について……64
フロント ウエイトの追加……64
定期手入れを行いましょう……65
定期点検表……66
やさしい点検・整備……67
安全装置機構の点検……67
・ブレーキ スイッチの点検……67
・シート スイッチの点検……67
エンジン オイルの交換……68
燃料ろ過カップの清掃……69
エア クリーナの清掃・交換……70
点火プラグの清掃・調整……71
バッテリの点検……72
ヒューズの点検・交換……74
なた爪の点検・整備……75
ロータリ チェーン ケース オイルの点検……76
変速ベルト・PTOベルトの点検……77
各部のゆるみ点検、増締め、グリス塗布……78
運搬・保管のしかた……79
運搬（トラックへの積み降しのしかた）……79

ロープなどのかけかた……81
長期間使用しない場合の手入れ……82
故障のときは……83
主要諸元……85

安　全　作　業　の　お　願　い

本機を運転する前に本書をよくお読みいただき、十分理解してからご使用ください。
本書の中に安全に関する項目を「安全にお使いいただくためにこれだけは必ず守りましょう」(６頁)に記載しています。また本文中にも⚠**警告**、⚠**注意**としてそのつど取りあげています。

・本機や作業機に貼ってある安全ラベルをよくお読みになり警告に従ってください。
・本機を他の人に貸す場合は、この「取扱説明書」をよく読んでいただくようご指導ください。また取扱いの方法や安全に関する項目を説明してください。

⚠安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

１．一般的な注意項目……6
２．運転する前に点検……9
３．エンジンの始動……9
４．発進・走行……10
５．移動走行……11
６．下り坂では……11
７．登り坂では……12
８．ほ場への出入り……13
９．アユミ板を使うときは……14
10．ほ場での作業……15
11．作業機（ロータリなど）の着脱……17
12．作業途中や走行途中での駐車・点検……18
13．使用後の手入れ……20
14．点検・整備……20
15．長期保管……21

⚠ 安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

・イラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

1.一般的な注意項目

こんな人は、運転をやめましょう

・病気や薬物の影響、その他の理由で正常な運転のできない人



・酒気をおびた人



・子供
・未熟練者
・妊娠している人



作業に合った服装をしていますか

〈良い服装〉



〈悪い例〉

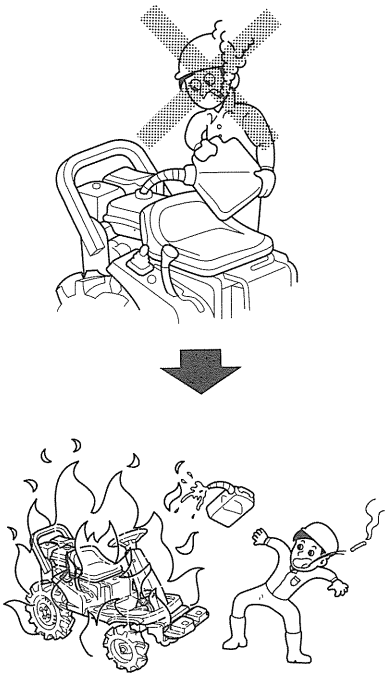
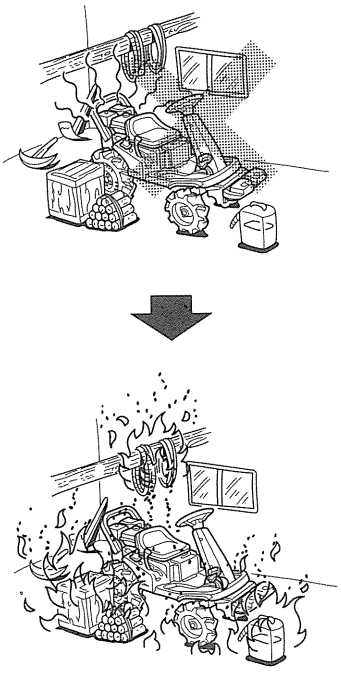


安全のため、ヘルメット、安全靴、保護メガネや手袋などを必要に応じて使用してください。

ダブダブの服や破れた服、かさばった大きな服は着用しないでください。
これらの服は回転部分や操縦装置などにひっかかることがあり、事故の原因になります。

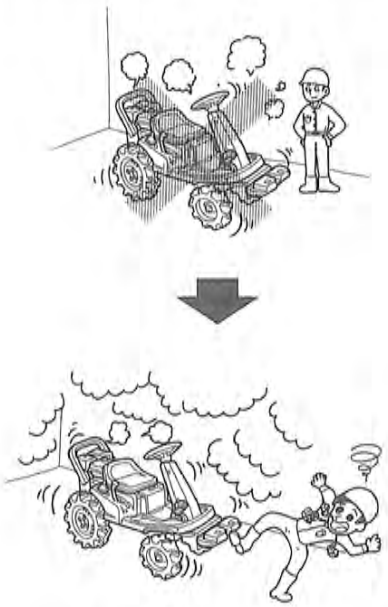
安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

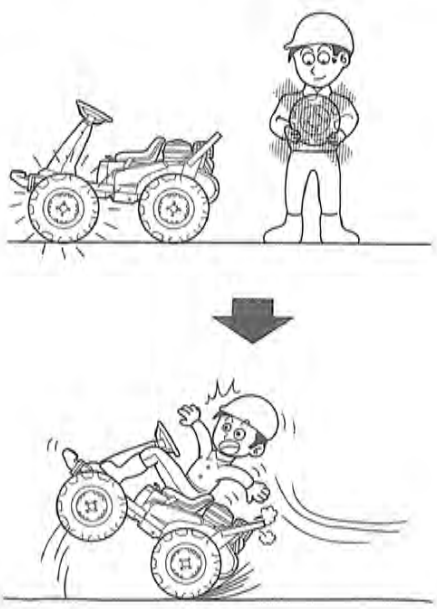
火災に注意しましょう

必ず守りましょう	こうなる前に!!
◍燃料は、引火しやすく、火災を引き起こすことがあります。 燃料の補給は、 ・エンジンを停止してください。 ・火気を近づけないでください。 ・燃料はこぼさないように入れてください。万一、こぼしたら布きれなどで完全にふきとり、火災や環境に注意して処分してください。	
◍運転中や停止直後のエンジンなどは熱くなっています。 ・エンジン、マフラ、燃料タンクの周辺はきれいにしておいてください。 ・燃えやすい物の近くに本機を止めないでください。 ・本機にカバーをかけるときは、エンジン、マフラが冷えてから行ってください。	

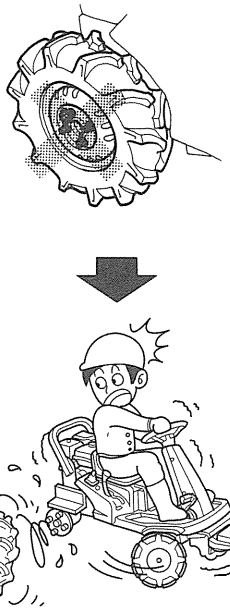
⚠ 安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

排気ガスに注意しましょう

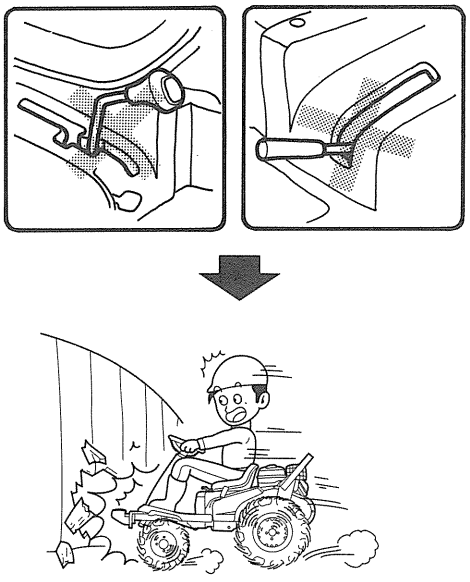
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●排気ガスの中には有害な一酸化炭素が含まれています。 ・換気の悪い場所ではエンジンをかけたり、アイドリングをしないでください。 ・有害な一酸化炭素による中毒のおそれがあります。	

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。 ●誤った部品を取り付けたり改造をしないでください。本機が適正な機能を発揮せず思わぬ事故の原因となることがあります。	

2.運転する前に点検

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●点検する時は、通行の妨害にならない平坦で安全な場所で必ずエンジンを停止し、エンジン スイッチ キーを外してください。 ●本説明書に従って各部の点検を行ってください。(36～44頁参照) ●足廻りの締付けボルトやナットを1つ1つ確認して、もしゆるんでいたら締付けてください。	各部の締付け確認は 

3.エンジンの始動

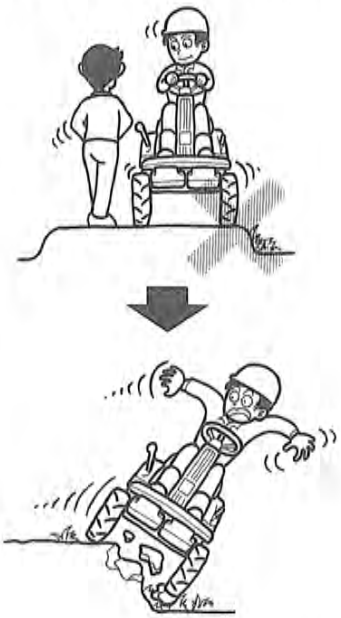
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●必ず運転席に座って始動してください。 ●周囲の安全を確認してください。 ●変速レバーを〝中立〟にし、PTOレバーを〝切〟にし、ブレーキを踏み込んだままでエンジンを始動してください。	レバー類は〝中立〟、〝切〟の位置になっていますか 

4. 発進・走行

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●乗車定員は１名です。運転者以外の人や物を絶体にのせないでください。	乗員定員は１名です 

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●発進する前に、必ずPTOレバーを〝切〟にしてください。 ●発進するときは、エンジン回転を下げて、変速レバーをゆっくり操作して、スムーズに発進してください。	PTOレバーは〝切〟になっていますか 

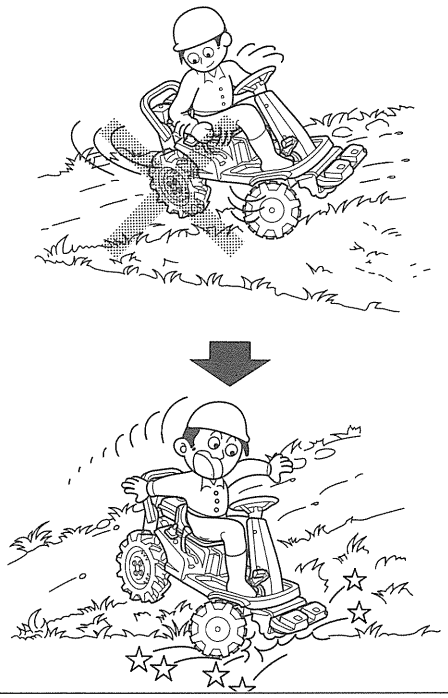
5.移動走行

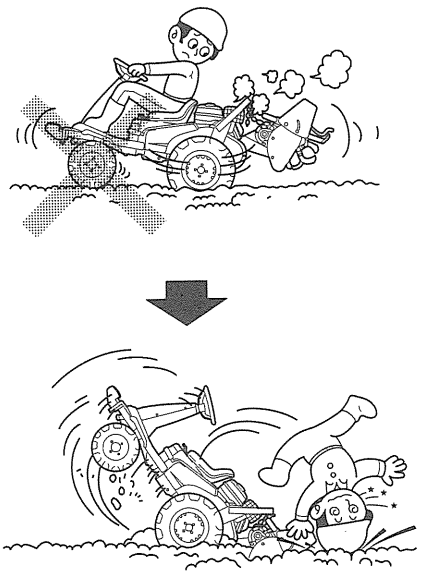
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●路面状況を確認し、路肩に注意して走行してください。 路面の状況が良くわからないときは、本機から降りて良く確認しましょう。 ●急発進・急停止・急旋回は避けてください。	路肩に注意してますか 

6.下り坂では

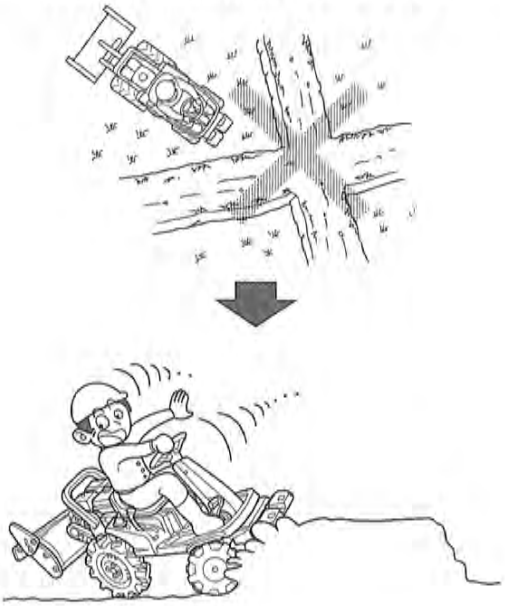
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●急傾斜地では使用しないでください。 ●坂の手前でいったん停止して、エンジン回転調整レバー〝🐢〟の位置にし、変速レバーを〝作業〟にしてから、エンジン ブレーキを使って坂を下ってください。 ●坂の途中で急な変速操作やハンドル操作をしないでください。 ●むやみに急ブレーキをかけないでください。	

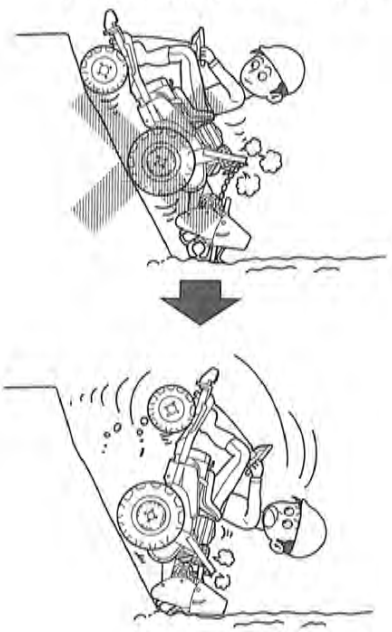
7. 登り坂では

必ず守りましょう	こうなる前に!!
● 急傾斜地では使用しないでください。 ● 坂の手前でいったん停止して、エンジン回転調整レバーを〝🐢〟の位置にし、変速レバーを〝作業〟にしてから、登ってください。 ● 坂の途中で急な変速操作やハンドル操作をしないでください。 ● 急発進はしないでください。	

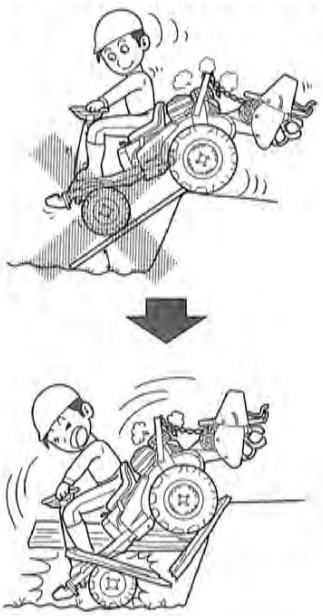
必ず守りましょう	こうなる前に!!
● 溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり、急傾斜地を前進で登ると本機が後ろに転倒することがあります。 本機の転倒防止のため、このような所では必ず後進で登ってください。	

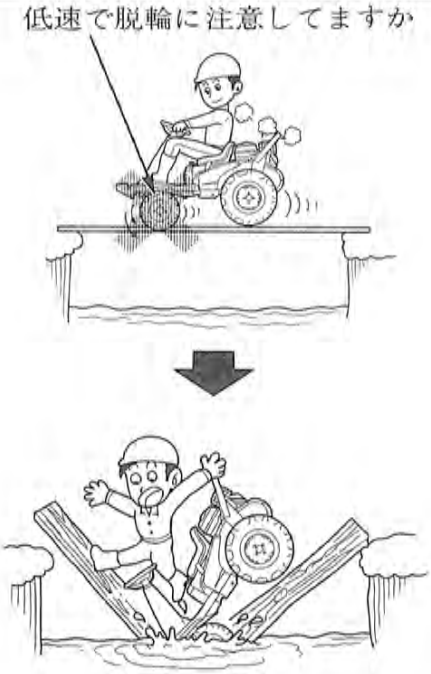
8. ほ場への出入り

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●ほ場への出入りは、本機を畦、溝に直角に向けて止め、必ず直角方向で行ってください。 ●エンジン回転を下げ、低速で行ってください。 ●出入り場所をよく確認してください。 ●段差の大きいほ場の溝越えのときは、アユミ板を使用するか出入り口に傾斜や渡り橋を設けてください。 ●作業機が斜面の上側になるように出入りしてください。	低速で直角に出入りしてますか 

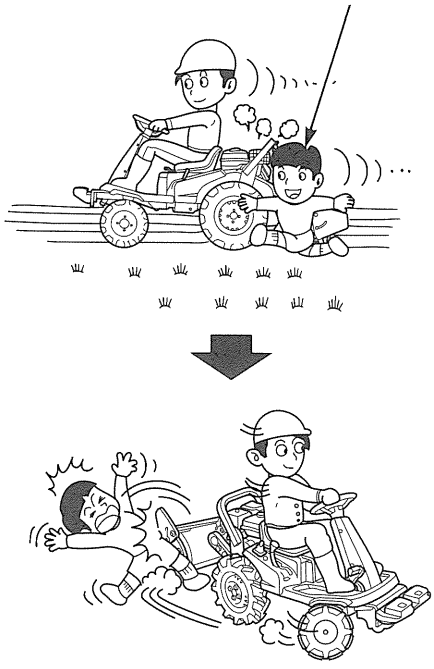
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●ほ場への出入りにはアユミ板を使用してください。	アユミ板を使ってますか 

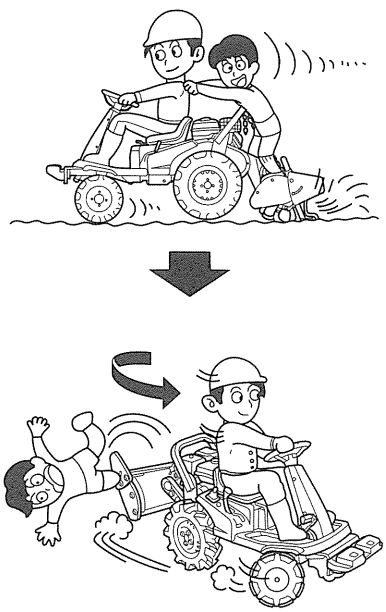
9.アユミ板を使うときは

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●本機及び作業機の重量に耐えるすべり止めのある金属製のアユミ板を使用してください。 ●アユミ板を使うときは傾斜角度15度以下になるような長さの物を使ってください。 ●アユミ板を使用する場所を良く確認してください。 ●アユミ板の安定・平行を確認してください。	アユミ板の強度、材質、傾斜角度は 

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●アユミ板を使うときは、畦、溝などに対して本機を直角に止めてください。 ●アユミ板の上では脱輪しないようハンドルを大きく操作しないでください。 ●本機の車輪幅に合わせ、アユミ板を左・右平行にして、ハンドルは直進状態にしてから、真直ぐに低速で走行してください。 ●作業機が斜面の上側になるように走行してください。 ●ロータリの爪がアユミ板にひっかからないよう注意してください。	低速で脱輪に注意してますか 

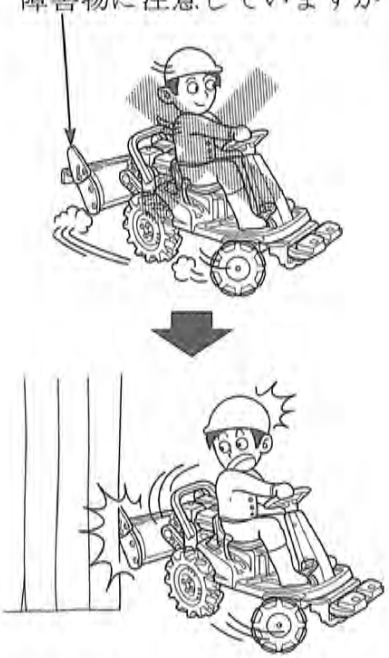
10. ほ場での作業

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●作業する場所には人や動物を近づけないでください。特に旋回するときは、前後左右に注意してください。 ●畦際で旋回するときは、まわりに人がいないか確認してください。 高速では絶対に旋回しないでください。 横転など重大な事故につながります。 ●カミナリが鳴り出したらエンジンを停止し、本機から離れて安全な場所に避難してください。	本機周囲の安全確認(人は近くにいませんか) 

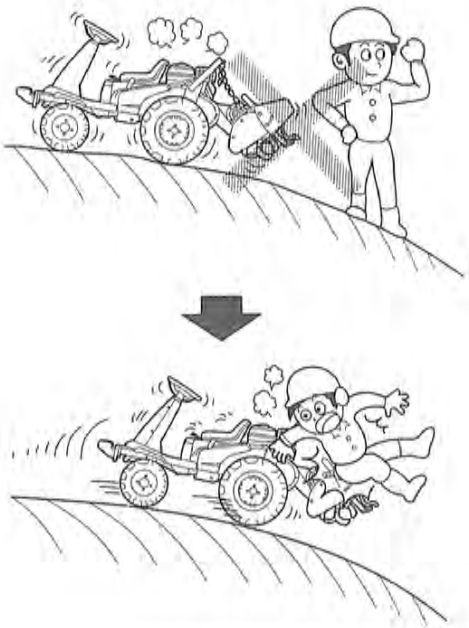
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●乗車定員は1名です。必ずお守りください。 ●作業機を使用するときは、必要に応じて本機の前部に適正なウエイトを取付けてください。 ウエイトは純正ウエイトを使用してください。 ●指定された作業機以外は使用しないでください。 ●作業機を装着したときの走行は、低速で行い、急発進、急停止、急旋回は避けてください。	運転者以外に人を乗せていませんか 

安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●手放しや、わき見運転をしないでください。 ●傾斜地では、遅い車速を選んで運転してください。速い車速では転倒したり、思わぬ事故を起こします。	わき見運転、手ばなし運転をしていませんか 

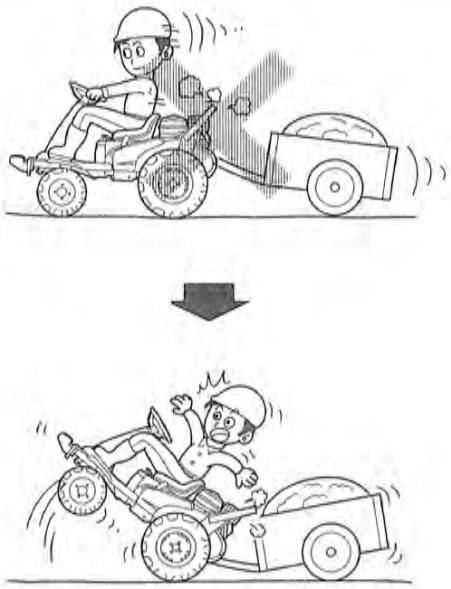
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●壁ぎわなどで旋回するときは、前後、左右に注意しながら作業機の位置を十分考えてハンドルを操作してください。 ●発進するときは、エンジン回転を下げて、変速レバーをゆっくり操作して、スムーズに発進させてください。	障害物に注意していますか 

11.作業機(ロータリなど)の着脱

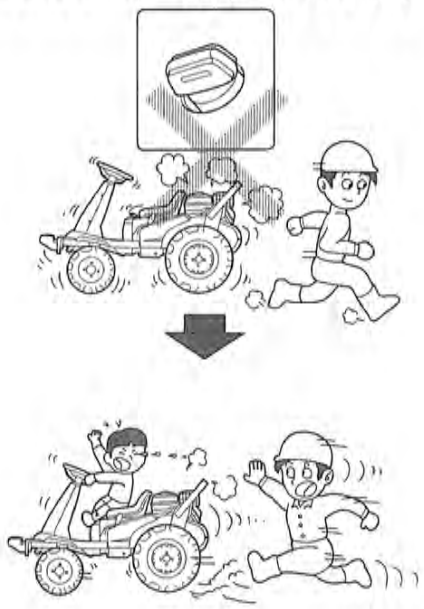
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●着脱は平坦な場所でエンジンを停止し、必ず駐車ブレーキをかけてください。 ●爪軸が停止していることを確認してください。	エンジンは停止しましたか 

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●作業機を着脱するときは、本機と作業機(ロータリなど)の間に人が入らないように注意してください。 ●作業機の下へ入ったり、足を入れたりしないでください。	人はいませんか 

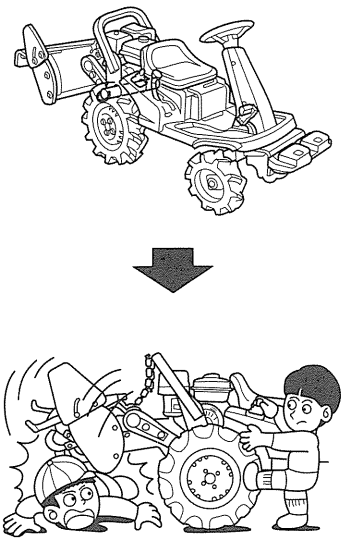
⚠安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

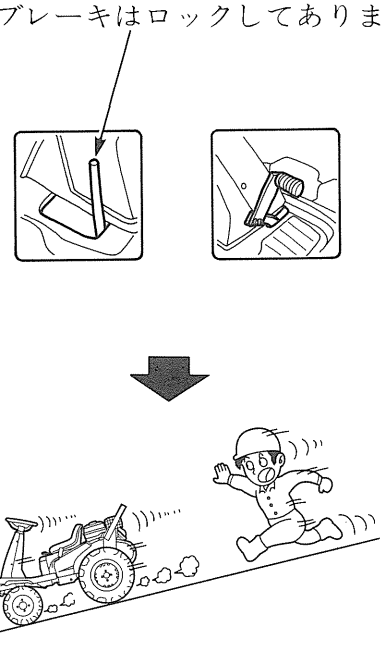
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●トレーラー作業は行なわないでください。本機の前部が急に持ち上がり後方へ転倒するおそれがあります。	

12.作業途中や走行途中での駐車・点検

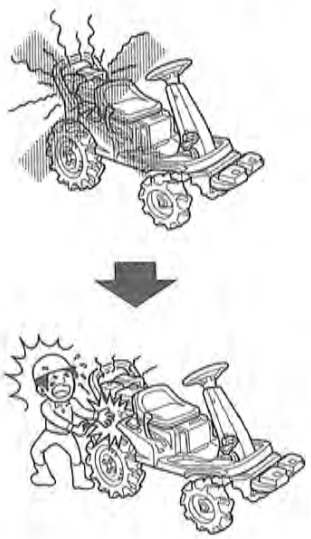
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●平坦な場所に止め、エンジンを停止してください。 ●運転席から降りるときは、駐車ブレーキをロックして、エンジン スイッチ キーを外してください。	エンジン キーは外してありますか。 

安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

必ず守りましょう	こうなる前に!!
● 作業機を点検・調整する場合には、作業機の昇降を防止するためエンジン スイッチ キーを〝停止〟にしキーを外してください。 ● 落下防止装置付の作業機を装着し、必ず落下防止装置で落下防止の処置を行ってください。	落下防止装置をセットしていますか 

必ず守りましょう	こうなる前に!!
● 非常の場合以外、坂道では駐車しないでください。 ● やむをえず坂道で駐車する場合には、駐車ブレーキをロックして車輪に車輪止めをしてください。 ● ニュートラル リリースピンは押し込まないでください。(31頁参照)	駐車ブレーキはロックしてありますか 

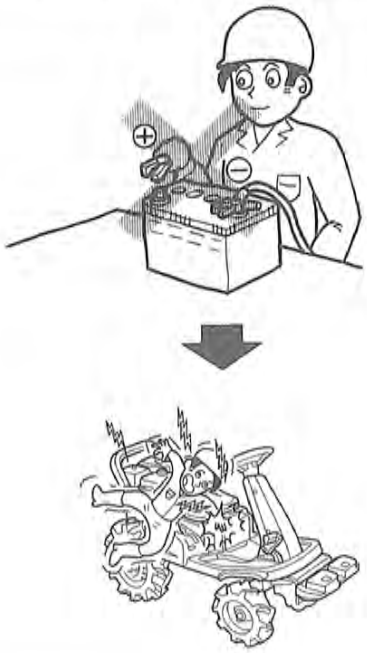
13.使用後の手入れ

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●エンジンを停止してください。 ●エンジン停止直後は、エンジン、マフラなどが高温になっています。点検、整備などは十分に冷えてから行ってください。 ●各部の清掃を行ってください。 (特にマフラ及びエンジンの高温部分のゴミ) ●作業機の清掃、点検、交換、耕うん爪などの交換時はエンジン スイッチ キーを外してください。必ず落下防止装置で落下防止の処置を行ってください。 ●格納するときは、作業機を下げ、駐車ブレーキをロックして、エンジン、マフラが完全に冷えてから格納してください。	冷えていますか 

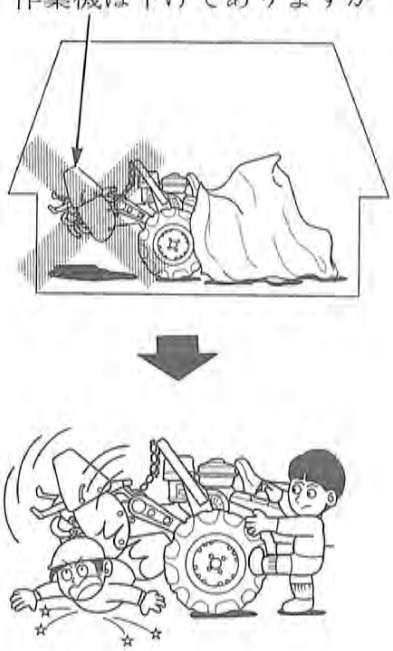
14.点検・整備

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●バッテリ液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分は侵されますので十分注意してください。万一、付着した時はすぐに大量の水で少なくとも15分以上洗浄し、直ちに専門医の診断を受けてください。 ●バッテリを取扱うときはショート(短絡)による火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。	

⚠ 安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●バッテリーのショート(短絡)を防ぐために、バッテリの結線順序を守ってください。 バッテリを外すときはマイナスコードを先に外します。 バッテリを取付けるときはプラスコードを先に接続します。	

15. 長期保管

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●駐車ブレーキをロックして風通しの良い乾燥した場所に本機を水平にして格納してください。 ●作業機は外すか、地面に接地するまで下げておいてください。 ●バッテリ マイナス コードを外してください。 ●後輪の前後に車輪止めをしてください。 ●本機にカバーをかけるときは、エンジン、マフラが冷えてから行ってください。	作業機は下げてありますか 

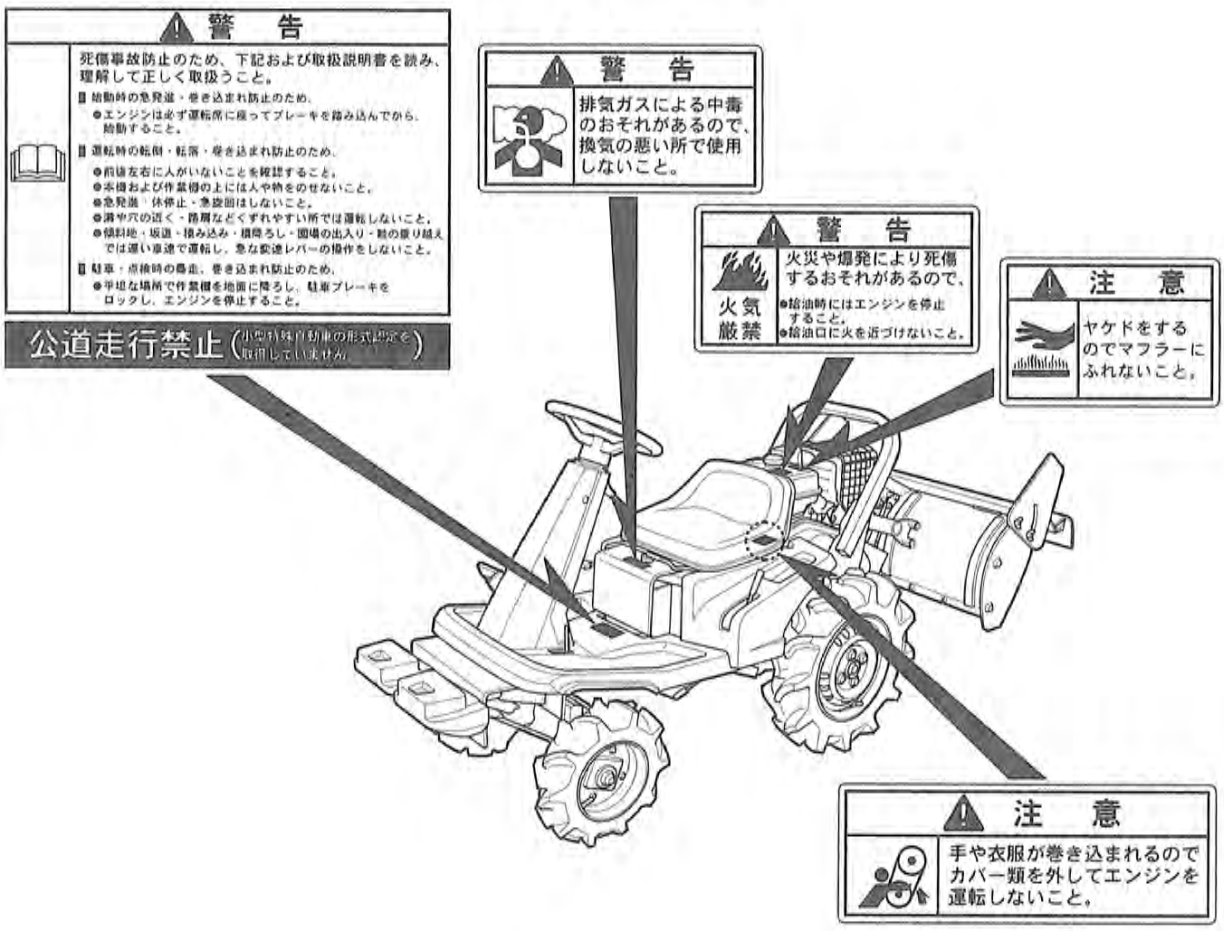
安全ラベル

本機を安全に使用していただくために、本機に安全ラベルが貼られています。ラベルをすべて読んでからご使用ください。

ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。

本機に貼ってあるラベルが汚れたり、傷ついたり、なくなったりして読めなくなったら新しいラベルに貼り替えてください。安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。

ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。




危　険
回転している爪にふれると死傷することがあるので、回転している爪に近づかないこと。
警　告
■回転中の PTO 軸にふれるとケガをすることがあるので、近づかないこと。
■PTO 軸を使用しない時は必ずカバーを付けること。
警　告
死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。
■爪の交換・移動・及び点検調整時の巻き込まれや落下防止のため、
● 平坦な場所でエンジンを停止し、駐車ブレーキをロックすること。
● 必ずクサリをフックに引っかけ、クサリを張ること。
フック
点検・移動時
クサリをはる
■ロータリ脱着時のはさまれ、脱落防止のため、
● PTO を"切"にして平坦な場所で行うこと。
● 本機とロータリの間に立たないこととこと。
● 装着時は、連結部を確実に入れること。

フレーム号機とエンジン号機

サービスについてのお問いあわせや部品などご用命のときは、フレーム号機とエンジン号機をお買いあげ販売店へお知らせください。

フレーム号機は右側、前輪の前のフレームに表示されています。

エンジン号機は右側、燃料タンクの下に表示されています。

ご参考のために、ここに番号を記入しておかれると便利です。

フレーム号機　No.

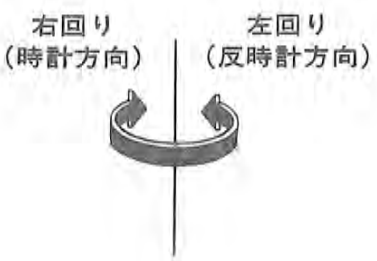
エンジン号機　No.

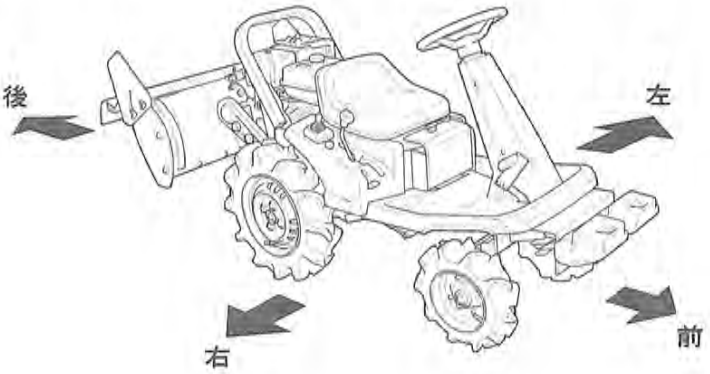




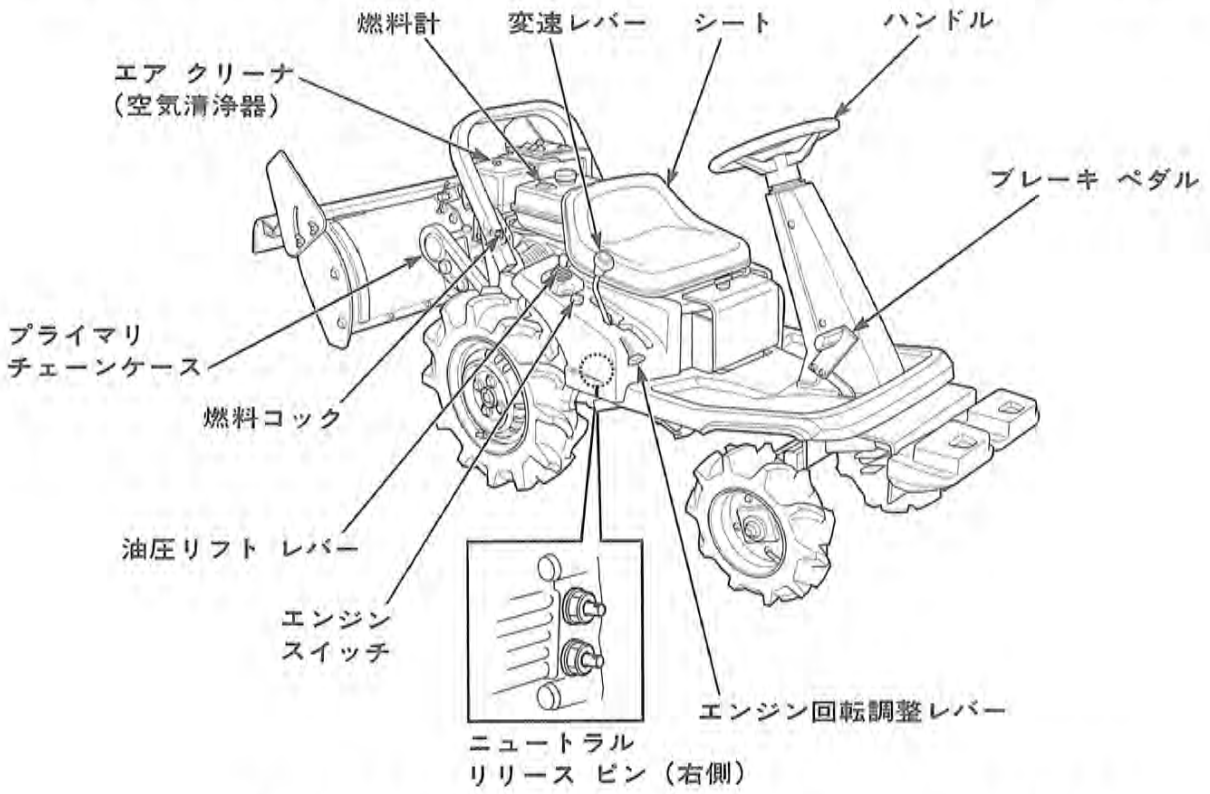
方向

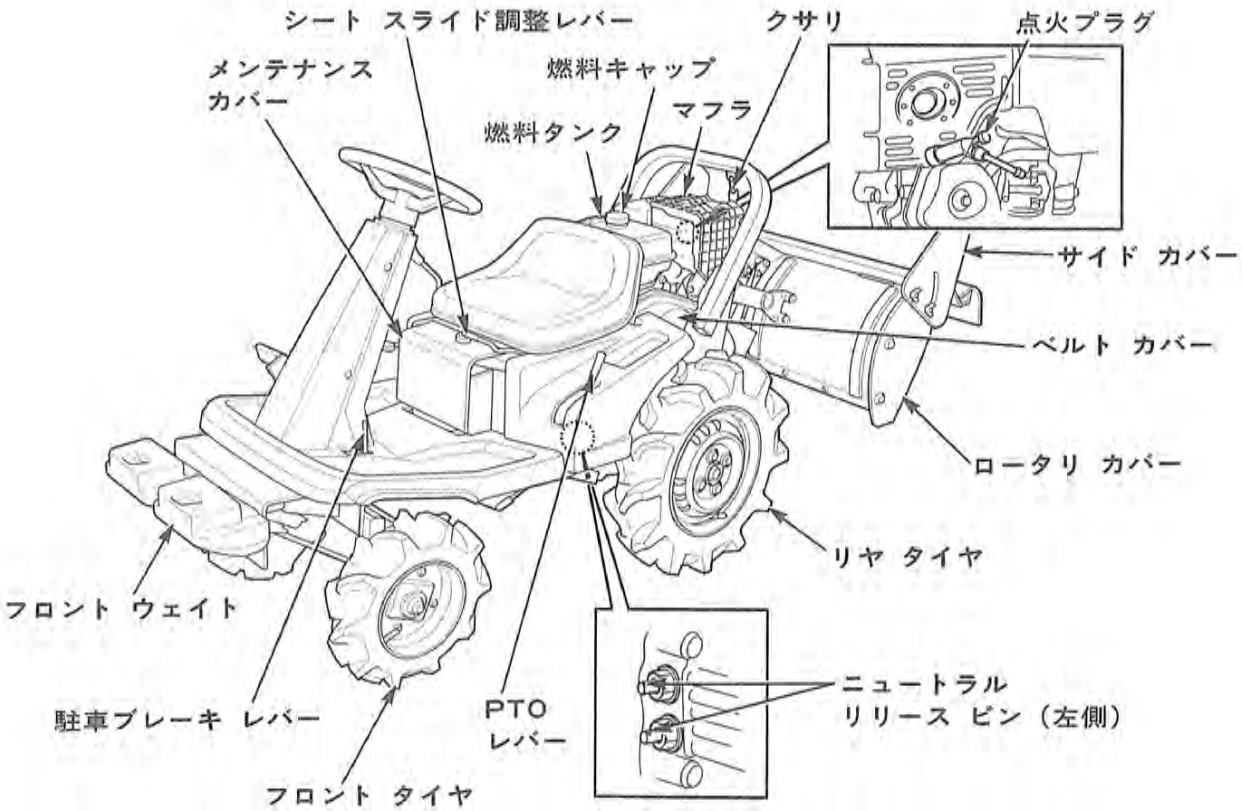
この取扱説明書で使用している《前後・左右・右回り・左回り》などの用語は下の図のように決めております。





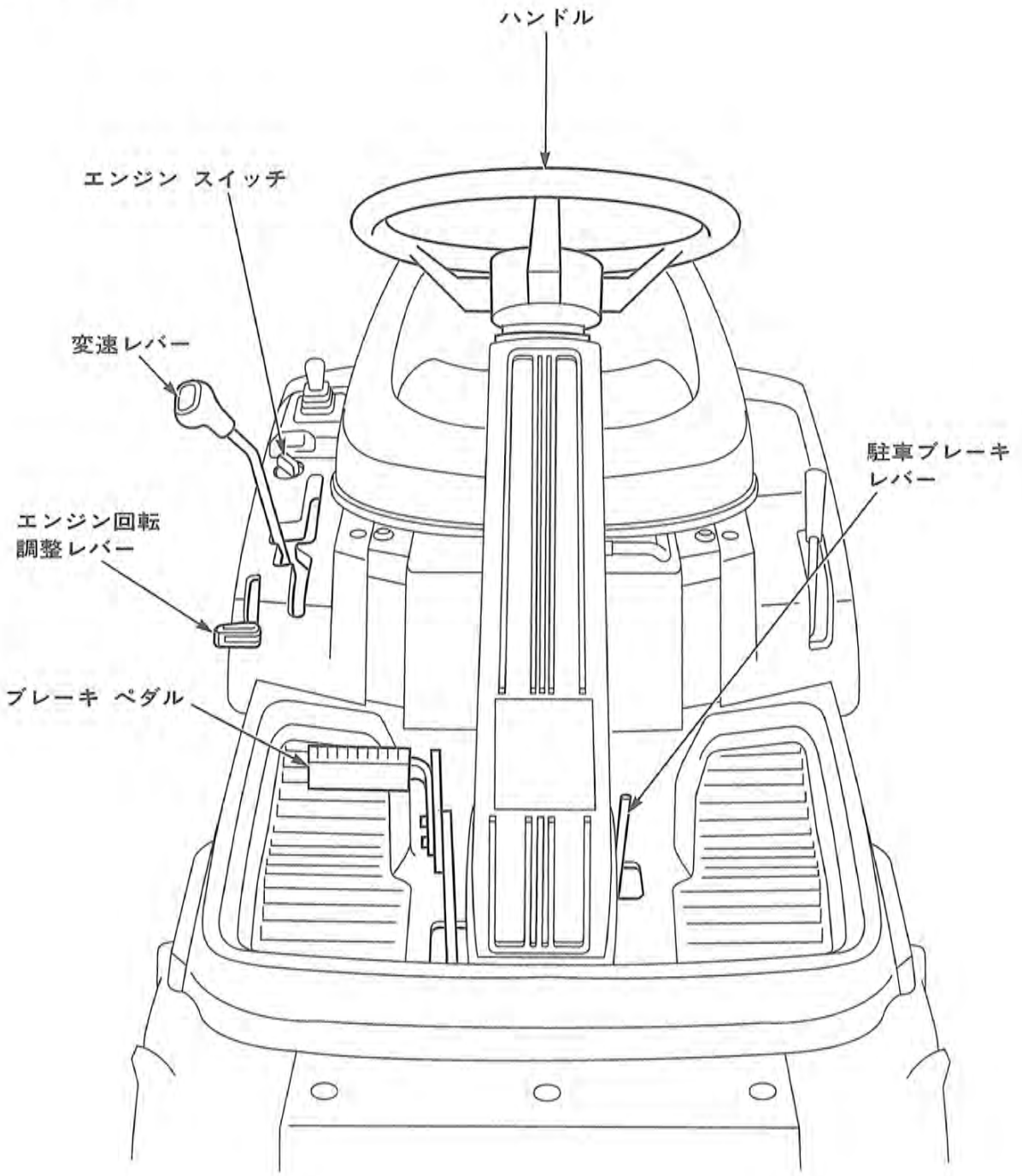
各部の名称と取扱いをおぼえましょう





※Nタイプは、ロータリ無し仕様です。

走行装置



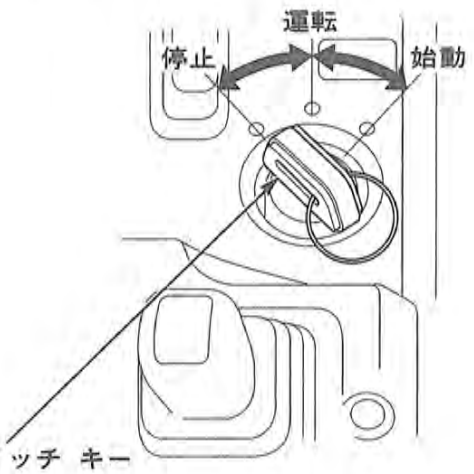
1.エンジン スイッチ

エンジンを〝**始動**〞、〝**運転**〞、〝**停止**〞するときに使用します。

始動—エンジンを始動させるときこの位置まで回します。スタータ モータが回ります。

運転—エンジン運転中の位置です。各電気系統がつながります。

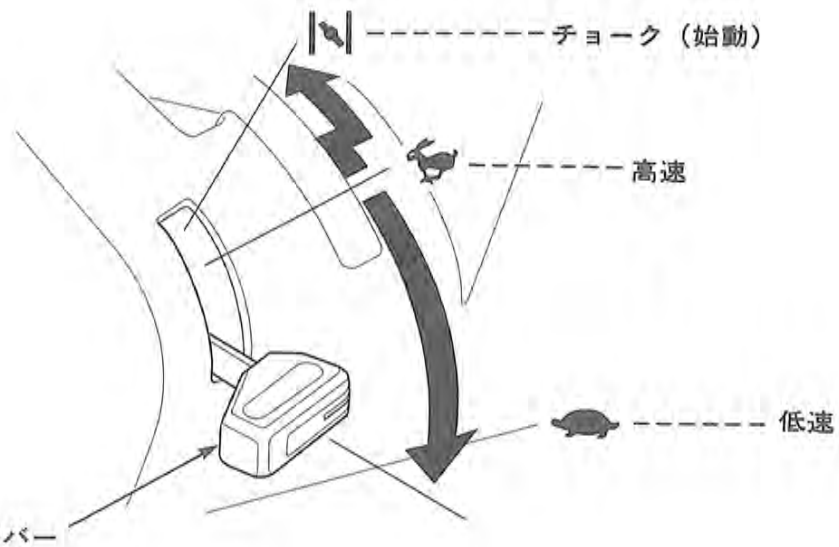
停止—エンジンを停止させ、各電気系統が切れます。（キーの抜き位置です。）



- 始動するときは、ブレーキペダルを踏み込まないとスタータ モータは回転しない構造になっています。

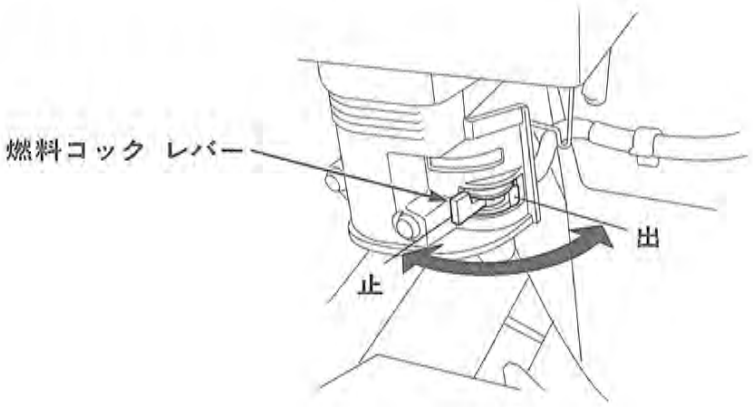
2.エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調節するときに操作します。状況に応じて回転数を調節してください。エンジンを始動するときは、チョークの位置に合わせてください。



3.燃料コック レバー

燃料コック レバーは、タンクのガソリンを出したり止めたりするときに操作します。



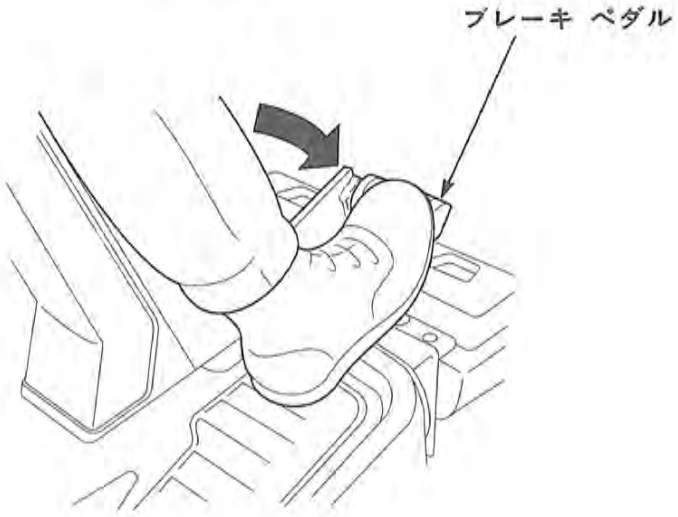
4.ブレーキ ペダル

本機を強制的に停止させるときに使用します。

・ブレーキ ペダルを奥まで踏み込むと自動的に変速レバーは〝**中立**〟に、PTOレバーは〝**切**〟の位置に戻ります。

⚠注意

変速レバーとPTOレバーの近くに手を置かないでください。レバーに指がはさまりケガをする場合があります。



5.駐車ブレーキ レバー

本機を駐車するときに使用します。

①ブレーキ ペダルを強く踏み込み、駐車ブレーキ レバーを手で前へ押します。

②駐車ブレーキ レバーを前へ倒したままブレーキ ペダルを離せば駐車ブレーキがロック（駐車）します。

・解除するときは、ブレーキ ペダルを踏んでください。レバーは自動的に戻ります。

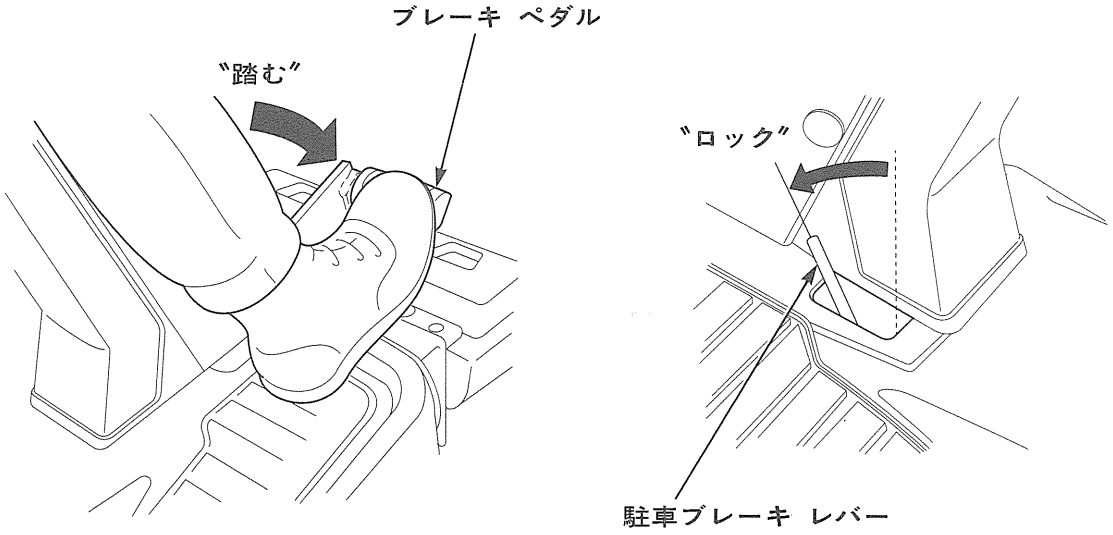
取扱いのポイント

・駐車ブレーキがロックされているときは、変速レバー、PTOレバーの操作はできません。
・駐車ブレーキ レバーは手で操作してください。足等で操作すると故障の原因となります。

・ブレーキ ペダルを奥まで踏み込むと自動的に変速レバーは〝**中立**〟に、PTOレバーは〝**切**〟の位置まで戻ります。

⚠注意

変速レバーとPTOレバーの近くに手を置かないでください。レバーに指がはさまりケガをする場合があります。



6.変速レバー

- 変速レバーを操作することにより前進、後進の変速が無段階にできます。
- 発進するときは変速レバーをゆっくり操作するとスムーズに発進できます。
- 信地旋回(小回り旋回)するときは変速レバーを〝**作業**〟(低速)にしてください。
- 本機は特性上、変速レバーの位置が同じでも傾斜角度や土壌の質により速度が変化することがあります。変速レバーで適切な速度にしてください。

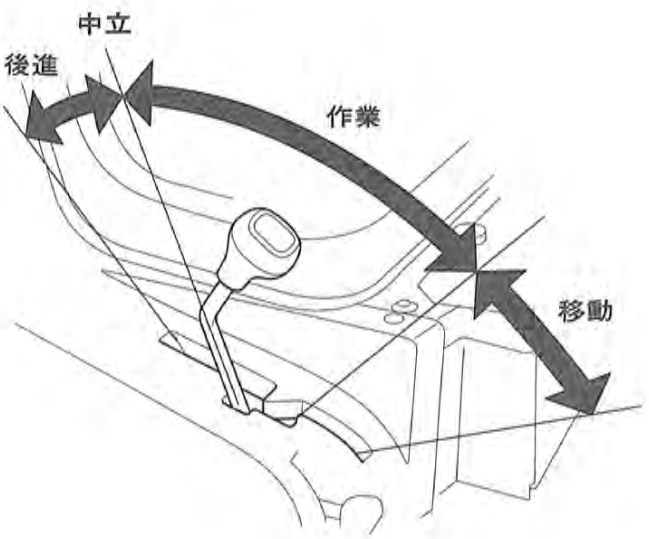
取扱いのポイント

- **変速レバーを操作するときはブレーキ ペダルから足を離してから行ってください。(ブレーキ ペダルを踏んでいると変速レバーは〝中立〟の位置から動きません。)**
- **ラベルに表示してある適応作業は目安です。それぞれの作業内容、土壌条件にあった速度で作業してください。**

- ブレーキ ペダルを踏み込むと自動的に変速レバーは〝**中立**〟の位置に戻ります。

⚠注意

変速レバーの近くに手を置かないでください。レバーに指がはさまりケガをする場合があります。



7.ニュートラル リリースピン

本機を押して移動するときに使用します。

ニュートラル リリースピンは本機下のトランスミッション(変速装置)の前側に左右2ヶ所の計4本あります。

通常はニュートラル リリースピンが出ている状態で使用します。

⚠警告

・ニュートラル リリースピンの切り替えは必ず平坦な場所で行ってください。斜面で操作すると本機が動きだすことがあります。
・移動が終ったらニュートラル リリースピンを必ず引き出してください。

移動するとき

①作業機を上げ、クサリをフックにたるみなく引っかけ落下を防止します。(61頁参照)

②駐車ブレーキをロックし、エンジンを止め、エンジン スイッチ キーを外します。

③ニュートラル リリースピンを4本共に押し込みます。

④駐車ブレーキを解除し、本機を移動します。

移動が終ったら

①駐車ブレーキをロックしてください。

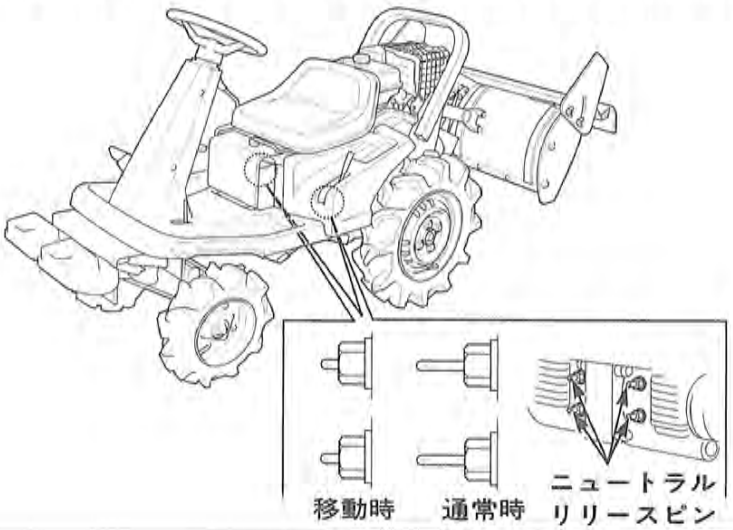
②ニュートラル リリースピンを手で引き出してください。

③エンジンをかけ駐車ブレーキを解除します。

④変速レバーで前進、後進することを確認してください。

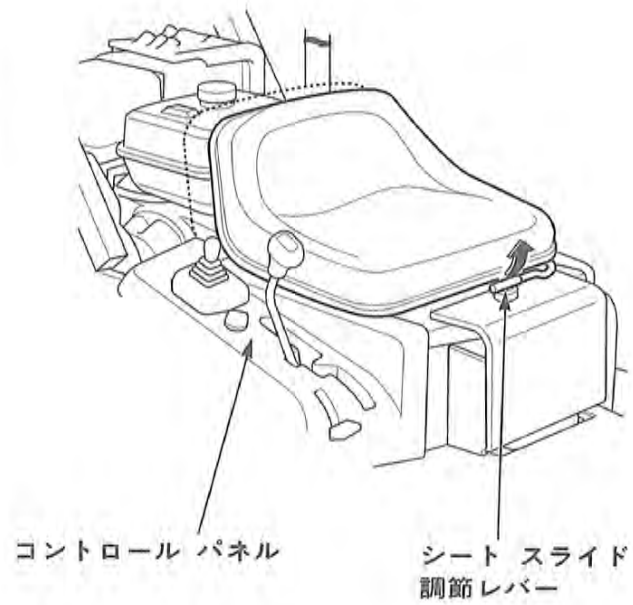
⑤作業機の落下防止ピンを元の位置に戻してください。

・ニュートラル リリースピンは、エンジンをかけ変速レバーを前進、後進に操作すると出ている状態になりますが、ピンが出ていることを確認してから作業を行ってください。



8.シート スライド調節レバー

シートの下の調節レバーを上げシートの位置を調節します。調節したあとシートが確実に固定されているか確認してください。



⚠注意

シートをスライドするときは、シートの後ろやコントロール パネルとの間に手を入れないでください。
シートで手をはさみ、ケガをする場合があります。

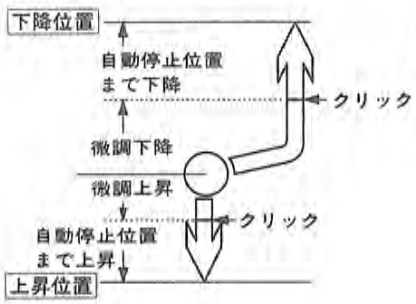
作業機操作装置

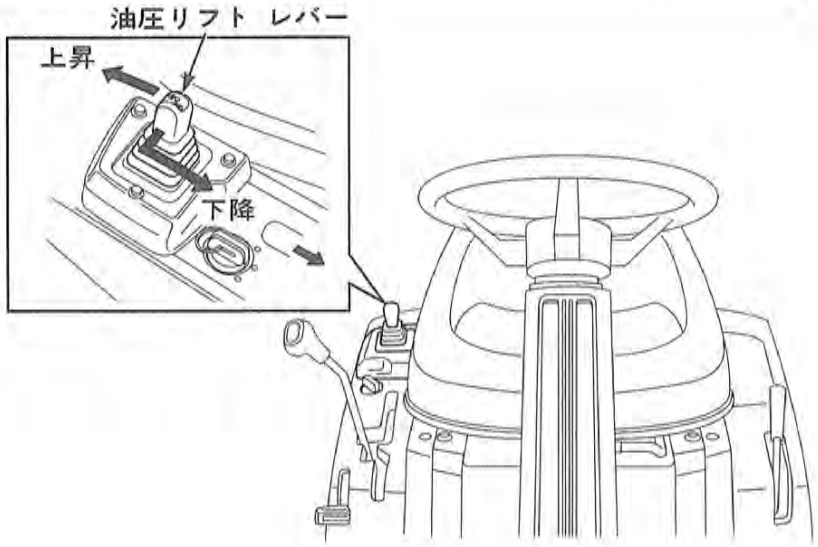
油圧装置はエンジン スイッチが〝**運転**〟の位置で油圧リフト レバーを操作するとエンジンが停止していても作動します。

⚠警告

駐車中はエンジン スイッチを〝停止〟にしてください。誤って油圧リフト レバーを操作したときに作業機が動きケガをする場合があります。

1.油圧リフト レバー

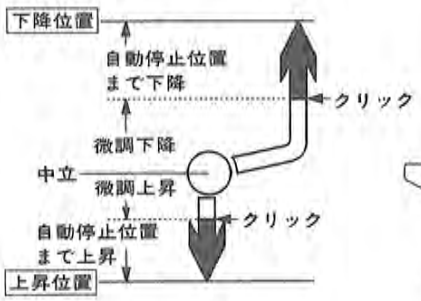


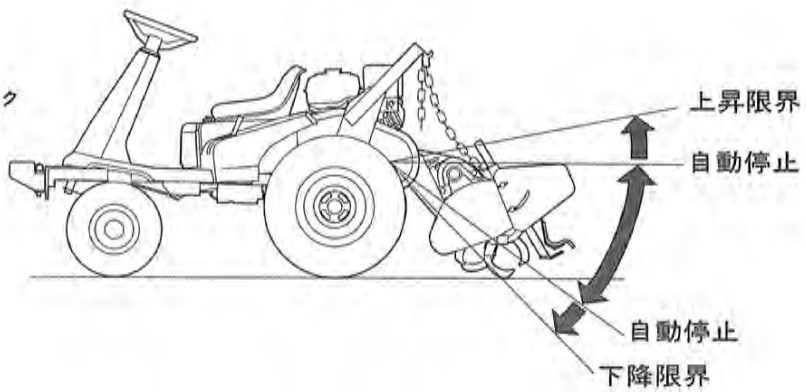


①上昇位置・下降位置

レバーをいっぱいに倒して戻すと作業機が決まった位置まで上昇、下降し、自動停止します。耕うんなどの作業で上昇、下降をくり返すときに使用します。上昇中(下降中)に作業機を止めるときはレバーをクリック位置まで〝**下降**〟(〝**上昇**〟)方向に1回倒してください。

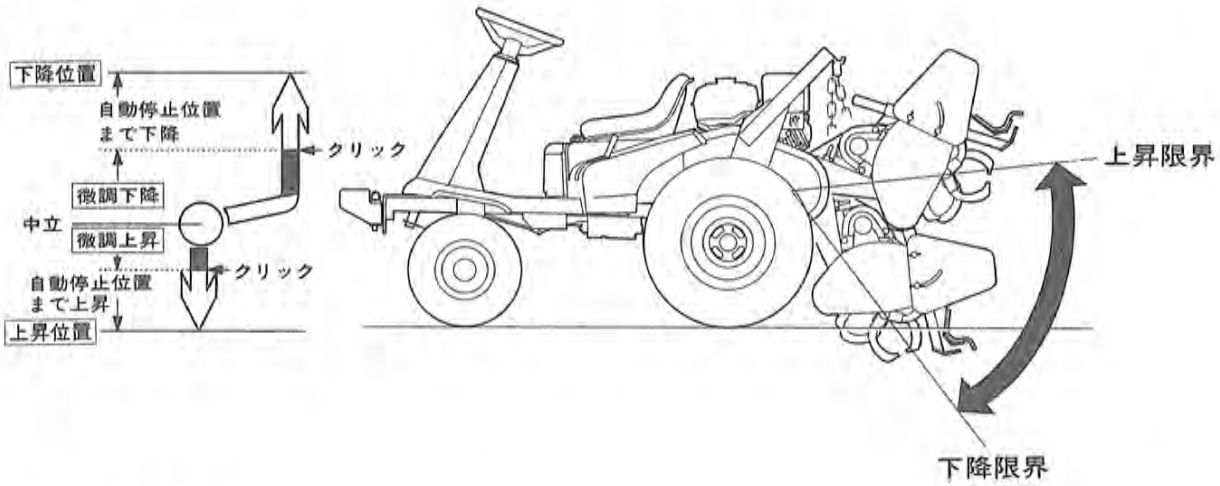
またスイッチを倒し続けている間は作業機が上昇限界(下降限界)まで昇降します。





②微調上昇・微調下降位置

レバーをクリック位置まで軽く倒すとその間作業機は下降(上昇)し、離すとその位置で停止します。



取扱いのポイント

- 作業機が上昇(または下降)の限界の位置のとき、油圧リフト レバーでさらに上昇(または下降)の操作をすると作動音(リリーフ音)が発生します。
  また作業機にどろなどが付着して、異常に重たくなった場合もリリーフ音が発生することがあります。
- 作業機に付着したどろは取除いてください。
- リリーフ音が発生するときには、油圧リフト レバーを倒し続けないでください。油圧装置の故障の原因になります。

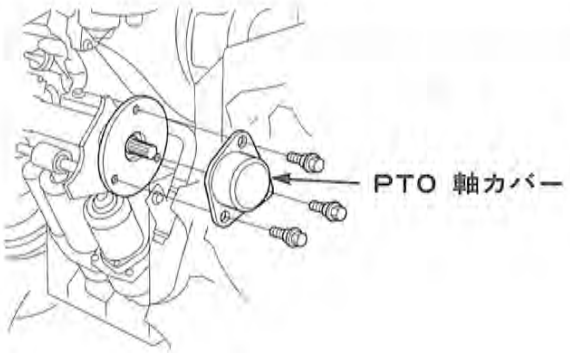
油圧リフト レバーを下降方向いっぱいに倒して自動停止位置まで作業機を下げると作業機を上昇させるときに油圧リフト レバーを操作しても作業機が上昇するまで時間がかかる場合があります。作業機を下降させるときに〝微調下降〟で必要なだけ下降させると、作業機はすぐに上昇します。

2.PTO軸カバー

⚠警告

・PTOを使用しないときは必ずカバーを取付けてください。カバーを取付けないまま使用すると、PTO軸に巻込まれケガをするおそれがあります。

PTO軸を使用しないときは、グリースを塗布し必ずカバーを取付けてください。



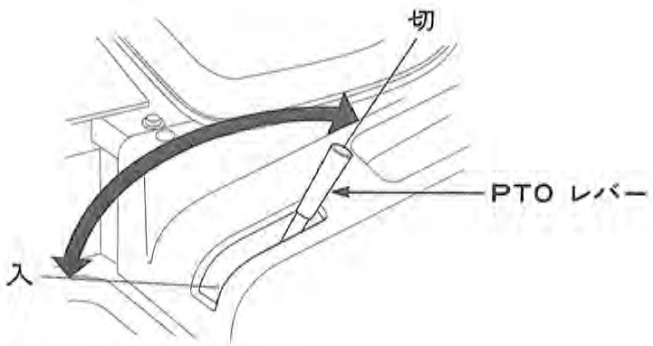
3.PTOレバー

P.T.O.(動力取出し軸)の回転を断続するレバーです。

・ブレーキを踏むと自動的にPTOレバーが"切"の位置に戻ります。

⚠注意

PTOレバーの近くに手を置かないでください。レバーに指がはさまりケガをする場合があります。



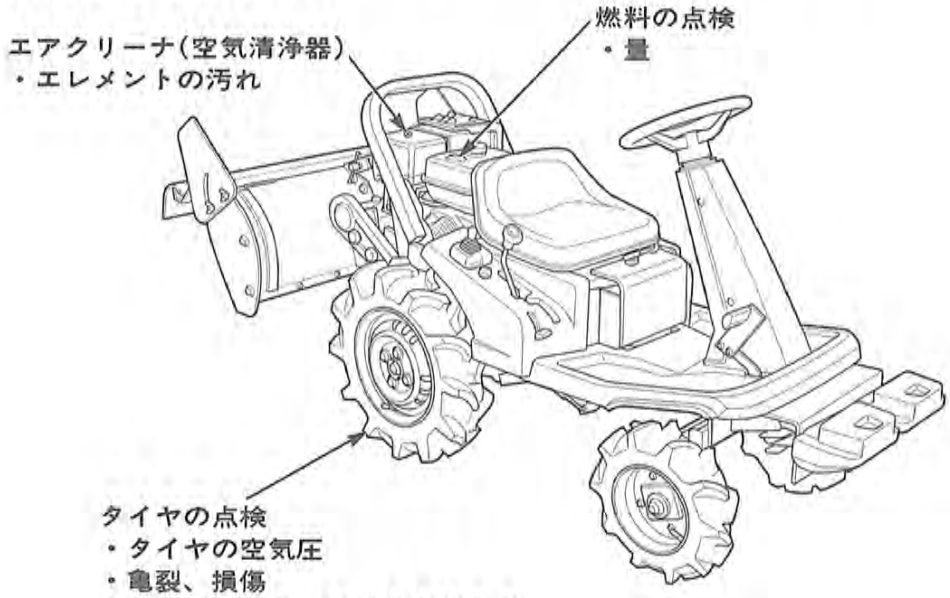
運転する前に点検しましょう

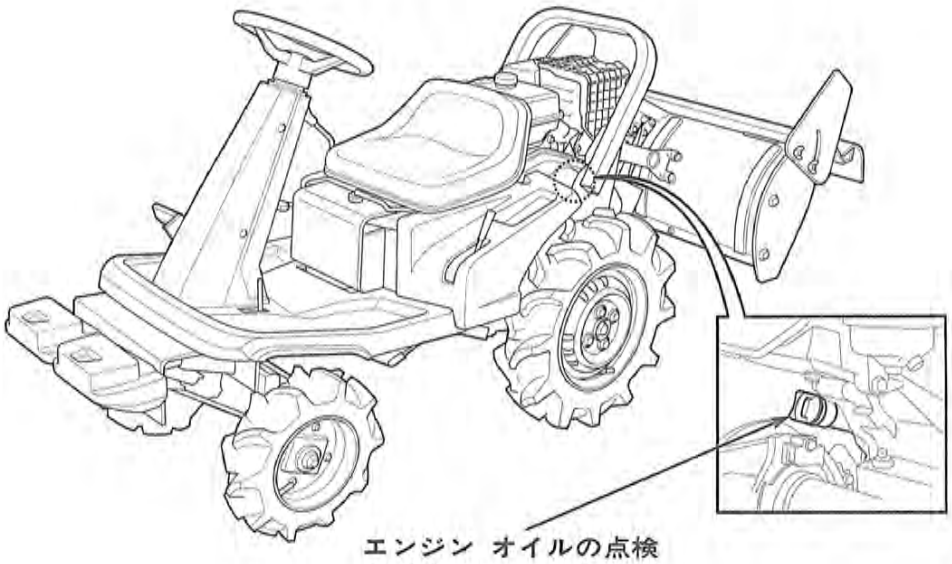
⚠警告

- 点検前に必ずエンジンを停止し、エンジン スイッチ キーを外してください。
- 点検は平担な場所で本機を水平にして行ってください。
- 作業機を完全におろしてください。

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

・本機の回りを歩いて

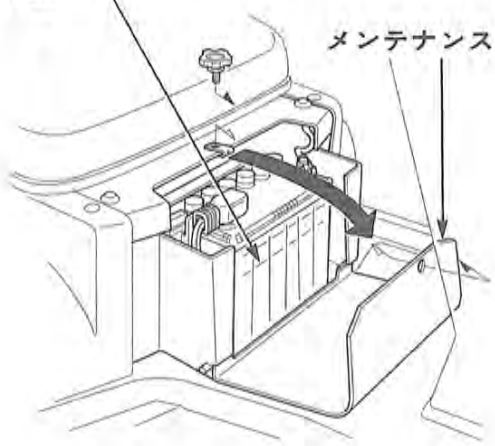




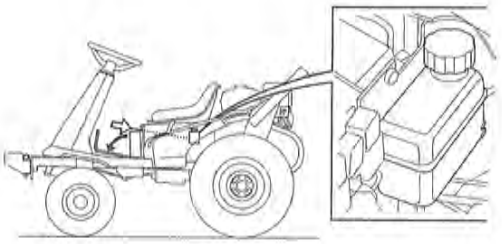
・メンテナンス カバーを開けて

バッテリ液の点検
・量

メンテナンス カバー



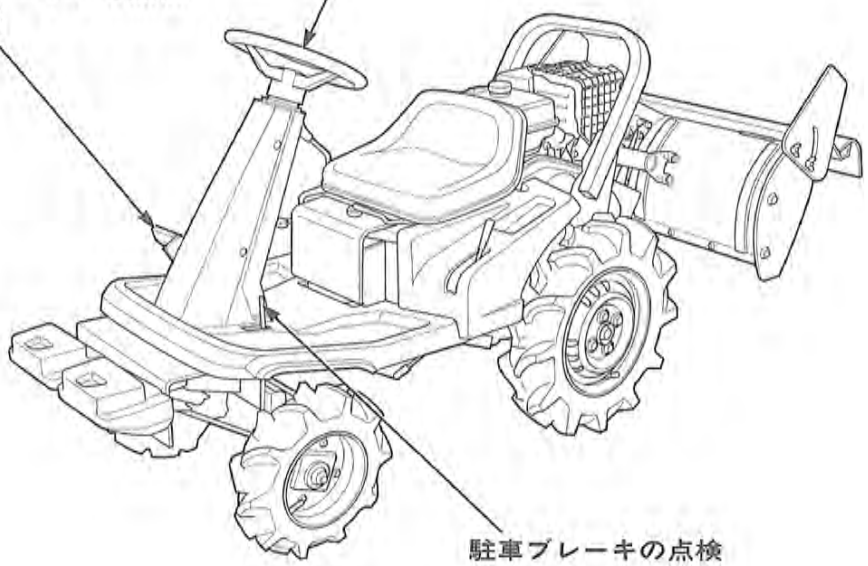
トランスミッション オイルの点検
・量



・運転席に座って

ハンドルの点検
・ひっかかり
・ガタ

ブレーキ ペダルの点検
・踏み代



駐車ブレーキの点検

・点検項目

1.タイヤの空気圧、亀裂、損傷、締付ボルト、ナットのゆるみ点検

・タイヤゲージでタイヤの空気圧を点検してください。

空気圧：120 kPa(1.2 kgf/cm²)

・タイヤに亀裂、損傷がないか点検してください。

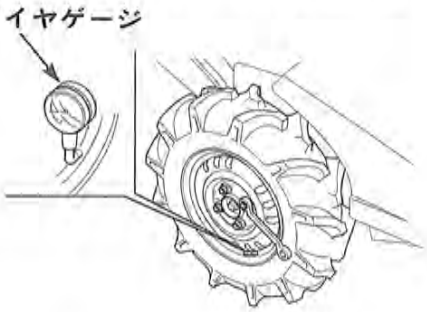
・締付ナットを1つずつメガネ レンチで確認し、ゆるい場合はメガネ レンチで確実に締付けてください。

締付トルク：

前輪：12mmナット　22N·m(2.2kgf·m)

14mmナット　39N·m(4.0kgf·m)

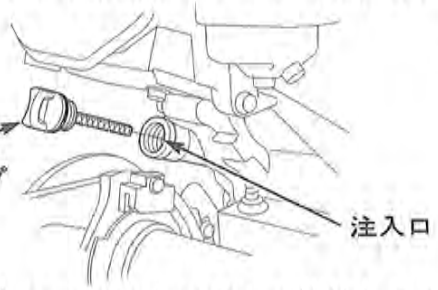
後輪：19mmナット　98～118N·m(10.0～12.0kgf·m)

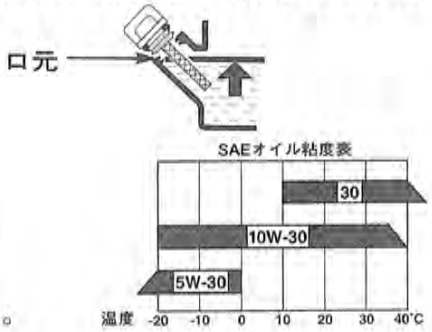


2.エンジン オイルの点検

点検

エンジンを水平にしオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。





補給

・少ないときには新しいオイルを口元まで補給します。

・汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は68頁参照)補給後、オイル給油キャップを手で確実に締付けてください。

・推奨オイル：Honda 純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)

またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

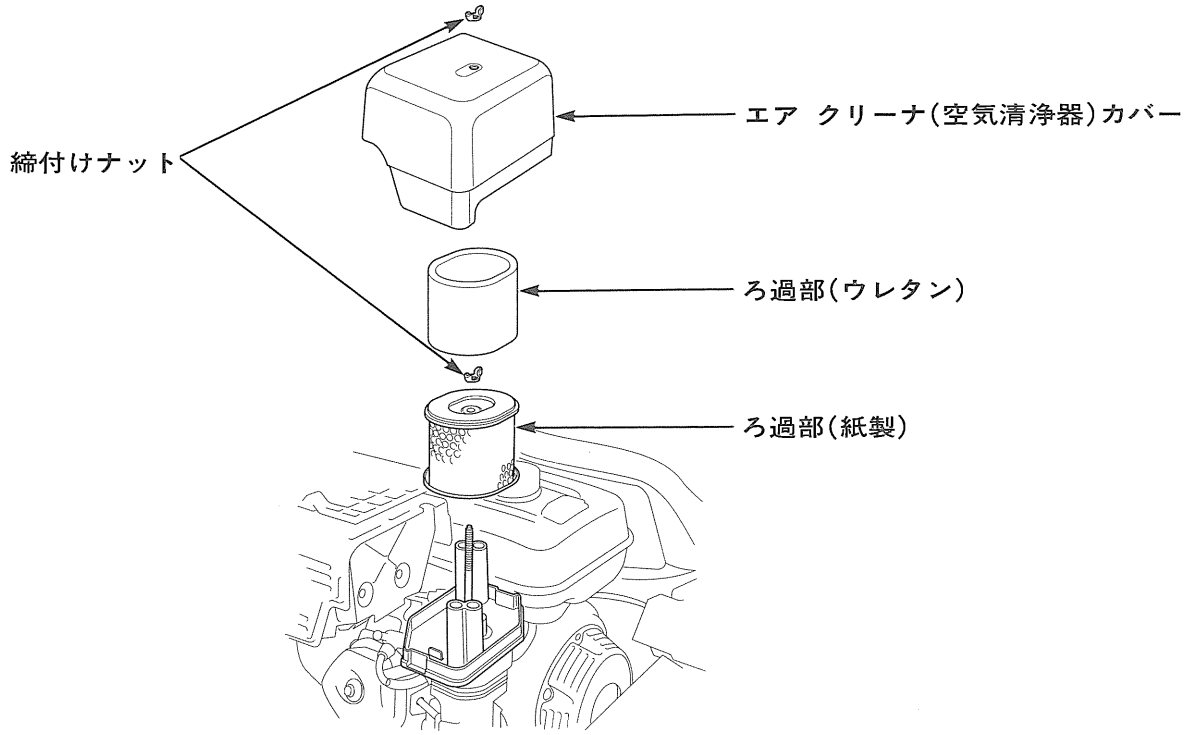
エンジン オイル量：1.1 ℓ

取扱いのポイント

- **低温時(気温10℃以下)では、Honda純正ウルトラU汎用SAE10W-30のオイルをご使用ください。**
- **寒冷時では、API 分類SE、SF、SG級相当のSAE5W-30のオイルをご使用ください。**
- **オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。**

3.エアクリーナ(空気清浄器)の点検

エアクリーナ カバーを外し、ろ過部(ウレタン・紙製)が汚れていないか点検します。
汚れている場合は清掃してください。(清掃時期、方法は70頁参照)

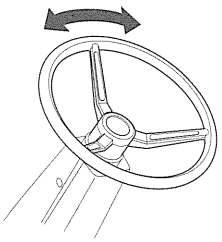


取扱いのポイント

- エアクリーナ カバーの締付けは確実に行ってください。締付け方が悪いと振動で、カバーが外れることがあります。
- エアクリーナ カバーやエレメントを装備しなかったり、正しく取付けられていないとエンジンに悪影響を与えます。

4.ハンドルの点検

ハンドルに異常なガタやひっかかりがないか点検してください。
もし異常があった場合は、お買いあげ販売店へお申しつけください。



5.ブレーキ ペダルの点検

踏み代の点検

ブレーキ ペダルを手で押して踏み代が規定値になっているか確認してください。

①変速レバーを〝**中立**〟にし、PTOレバーを〝**切**〟にしてください。

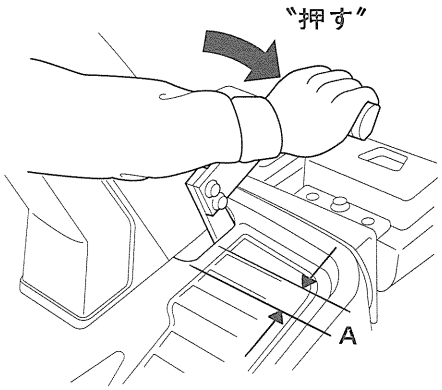
②ブレーキ ペダルを手で押してペダルが止まる位置までの距離Aを測定してください。

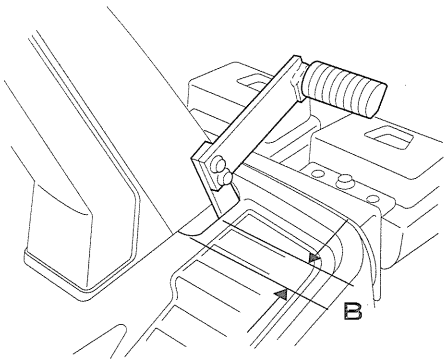
③駐車ブレーキをロックしてペダルが止まっている位置の距離Bを測定してください。

④距離Aから距離Bを引いた残りが踏み代です。

基準値：5～20mm

・踏み代が基準値からはずれているときは点検・調整が必要です。お買いあげ販売店へお申しつけください。





6.燃料の点検

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

ガソリンを補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近付けないでください。
- ガソリンはこぼさないように入れてください。万一こぼれたときは、布切れなどで完全にふき取り、火災や環境に注意して処分してください。

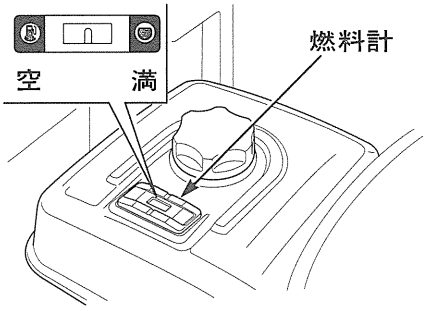
点検

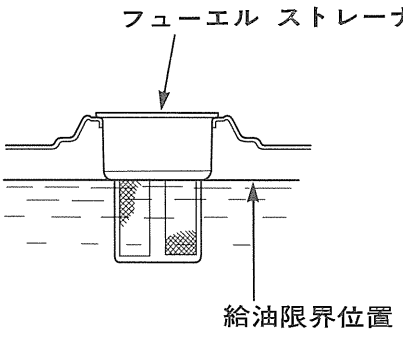
燃料計を確認してください。

燃料計の針が〝空〟に近づいたら、早めに燃料を補給してください。

取扱いのポイント

- 携帯缶やポリタンクから給油する場合はフューエル ストレーナを外さずに給油してください。
- ガソリンスタンドで給油する場合はフューエル ストレーナを外して給油してください。
- 給油限界位置を超えないように補給してください。





補給

使用燃料:自動車用無鉛ガソリン

タンク容量:6.0ℓ

- 給油キャップを外し、給油限界位置を超えないように燃料を補給します。
- 補給後、給油キャップを取付け完全に締付けてください。

取扱いのポイント

補給する場合は、燃料タンク内にゴミや水が入らないように注意してください。燃料タンク内にゴミや水が入るとエンジン不調の原因になります。

7.変速機オイルの点検

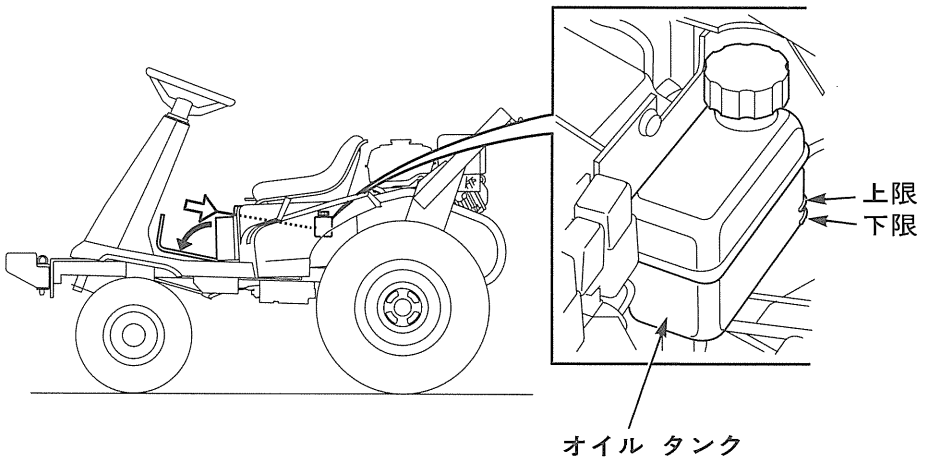
変速機オイルが不足すると本機が正常に走行できなくなり、故障の原因となります。点検時期、オイル容量を守りましょう。

本機を水平にして点検してください。

点検

HSTオイルの点検は本機が冷えている時に行ってください。

メンテナンス カバーを開けHSTオイル タンクのUPPER(上限)とLOWER(下限)の間にオイルがあるか点検します。LOWER(下限)を下まわっているときは、お買いあげ販売店にお申しつけください。

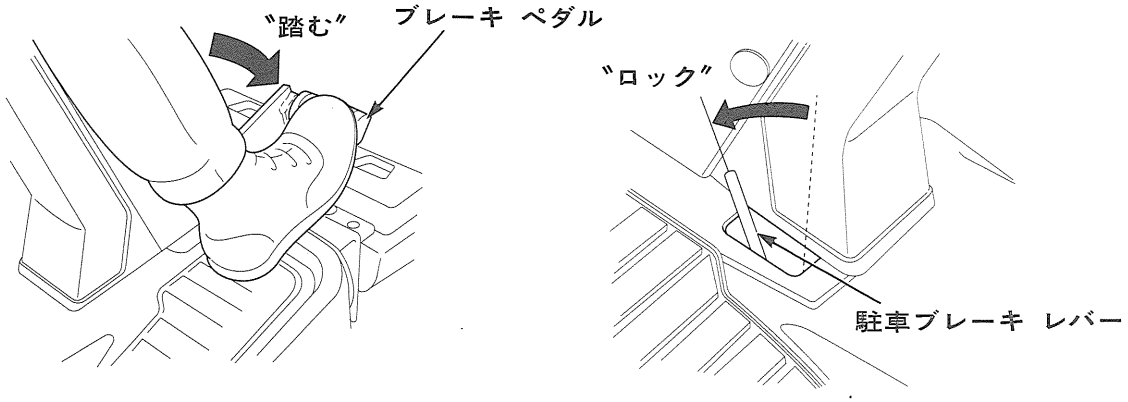


取扱いのポイント

HSTオイルが著しく減少する場合は、作業を中止してお買いあげ販売店にお申しつけください。

8.駐車ブレーキの点検

ブレーキ ペダルを踏み込み駐車ブレーキ レバーを手で前へ倒します。
駐車ブレーキのロックが確実に行える事を確認してください。

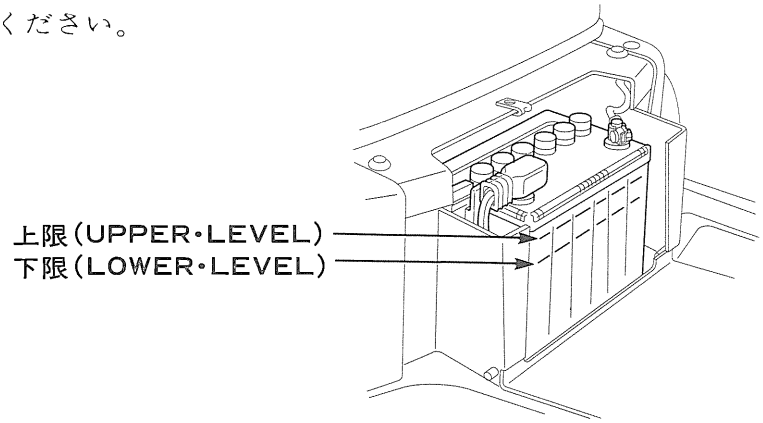


取扱いのポイント

駐車ブレーキ レバーは手で操作してください。足等で操作すると故障の原因となります。

9.バッテリ液の点検

バッテリの液面が各槽とも上限(UPPER・LEVEL)と下限(LOWER・LEVEL)の間にあるか点検してください。



液が少ないときは、72頁を参照して補給してください。

⚠警告

- バッテリを取り扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。
  バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発のおそれがあります。
- バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときは、すぐに大量の水ですくなくとも15分間以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。

10. ロータリの点検

次の項目を点検してください。

- なた爪軸のゆるみ、変形。
- なた爪のゆるみ、変形。
- なた爪の摩耗。
- チェーン ケースよりのオイル漏れ。
- プライマリー チェーン ケース固定ボルトのゆるみ。
- ヒッチ固定ハンドルA・Bのゆるみ。

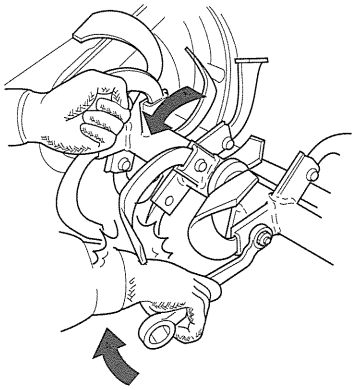
⚠注意

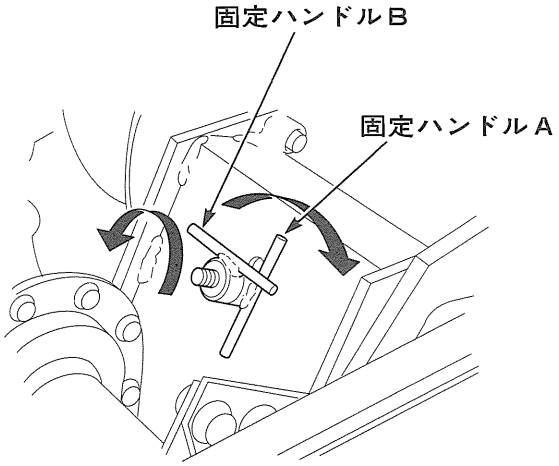
- 駐車ブレーキをロックしてください。
- 手にケガをしないように厚手の手袋を着用してください。
- 作業機を上げたときは、クサリをフックにたるみなく引っかけ、万一の落下にそなえてください。(61頁参照)
- ロータリの爪は内側が正転し外側が逆転します。
  ロータリの爪の点検や交換をする場合は爪の動きに十分注意してください。ロータリの爪が思わぬ方向に回転し、ケガをする場合があります。

取扱いのポイント

ヒッチ固定ハンドルA・Bのゆるみを点検するときは、

- 作業機を地面から10cm位持ち上げます。
- 固定ハンドルBをゆるめてから固定ハンドルAのゆるみを確認し、ゆるんでいたら増締めしてください。
- 固定ハンドルBを締めつけてください。





運　転　の　し　か　た

⚠警告

排気ガスの中には有毒な成分が含まれています。排気ガスによる一酸化炭素中毒のおそれがありますので、密閉された場所でエンジンをかけないで必ず換気のよい所で行ってください。

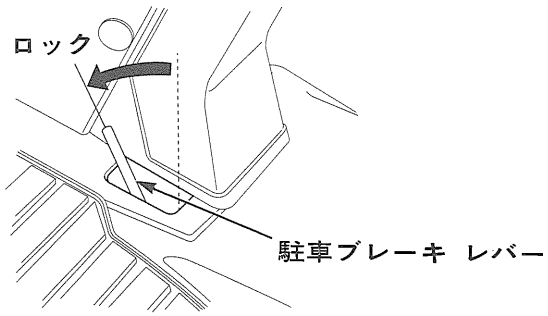
⚠注意

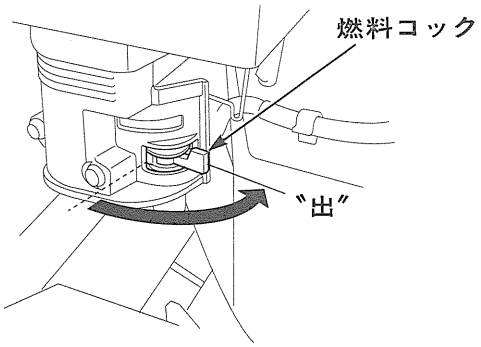
変速レバーとPTOレバーの近くに手を置かないでくだたい。レバーに指がはさまりケガをする場合があります。

エンジンのかけかた

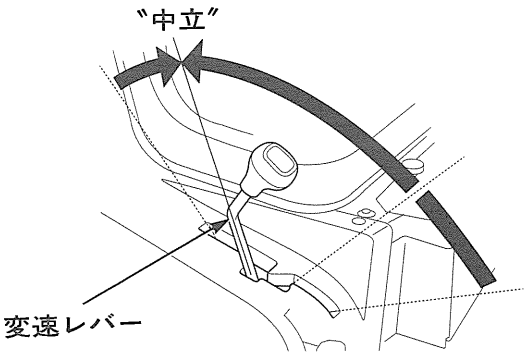
1.駐車ブレーキを確実にロックしていることを確認してください。

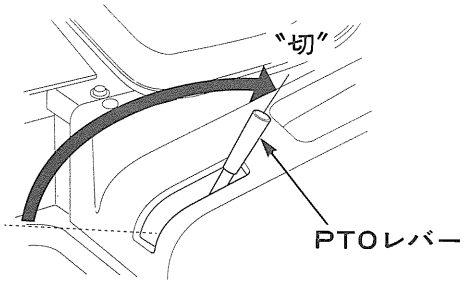
燃料コックを〝出〟の位置にします。





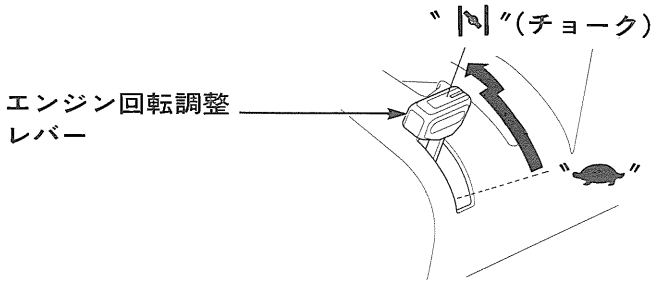
2.シートにすわり変速レバーが〝**中立**〟、PTOレバーが〝**切**〟の位置になっていることを確認してください。



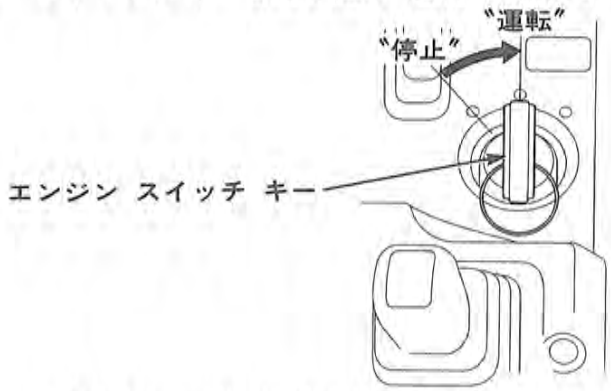


3.エンジン回転調整レバーを〝〟の位置にしてください。

エンジンが暖まっているときは〝〟の位置にします。



4.エンジン スイッチにキーを差し込み〝**運転**〟の位置まで回します。

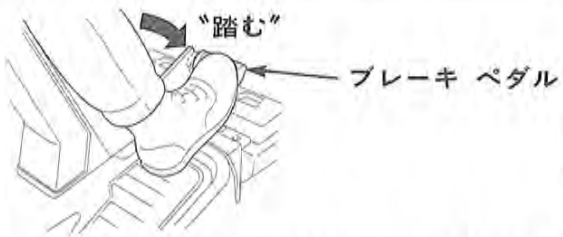


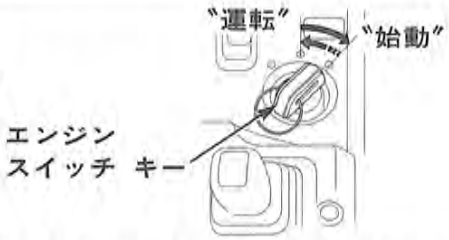
5.ブレーキ ペダルをいっぱいに踏み込んだままエンジン スイッチ キーを〝**始動**〟の位置まで回してください。エンジンが始動したらエンジン スイッチ キーから手を放してください。自動的に〝**運転**〟の位置まで戻ります。

・始動するときは、ブレーキ ペダルをいっぱいに踏み込まないとスタータ モータは回転しません。

取扱いのポイント

・スタータ モータは大電流を消費しますので5秒以上の連続使用は避けてください。5秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを停止にして10秒以上休んでから再び始動の操作を行ってください。
・エンジン運転中は、エンジン スイッチ キーを〝始動〟の位置にしないでください。スタータ モータの故障の原因となります。
・バッテリが放電するので、エンジンをかけていないときはエンジン スイッチ キーを〝運転〟の位置のままにしないでください。





6.エンジン暖気後、回転が安定したら、エンジン回転調整レバーを〝🐢〟の位置に戻してください。

⚠注意

エンジン回転調整レバーが〝🐇〟の位置になっている状態で変速レバーを操作すると急発進し事故を起こすことがあります。必ず〝🐢〟の位置にしてください。



暖機運転

・暖機運転

エンジン始動後、約5分間は暖機運転を行ってください。オイルをあたため各部にゆきわたらせることによって、摩耗を減少し、焼付きや破損などを防止する効果があります。

⚠注意

暖機運転中は必ず駐車ブレーキをロックしてください。

取扱いのポイント

寒冷地(冬期)及び長期保管後は十分暖機運転を行ってください。

・エンジン運転中で駐車ブレーキをロックしていないときに、シートから降りるとエンジンが停止します。

・駐車中に長時間のエンジンの運転は本機へ悪影響を与えます。使用しないときはエンジンを停止してください。

発進・走行のしかた

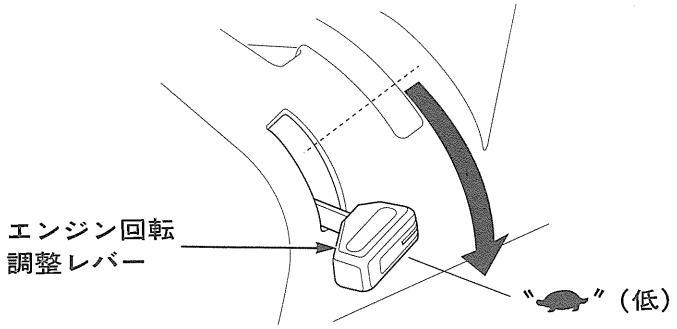
⚠警告

- 運転時の転倒、転落、巻き込まれ防止のため、
  - 前後左右に人がいないことを確認してください。
  - 本機および作業機の上には人や物をのせないでください。
  - 急発進、急停止、急旋回はしないでください。
  - 溝や穴の近く、路肩などくずれやすい場所では運転しないでください。
  - 傾斜地、坂道、積込み積降ろし、ほ場の出入り、畦の乗り越えでは遅い車速で運転し、途中で変速しないでください。
  - 作業機に応じたフロント ウェイトを装着してください。

1.エンジンを始動してください。(45頁参照)

2.作業機を取付けているときは、油圧リフト レバーで作業機を地面から離れる位置まで上げてください。

3.エンジン回転調整レバーを〝🐢〟の位置にします。



4.ブレーキを解除し変速レバーをゆっくり操作してください。

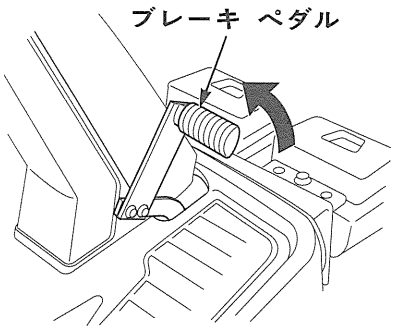
無段変速ですので変速レバーをゆっくり操作するとスムーズに発進します。

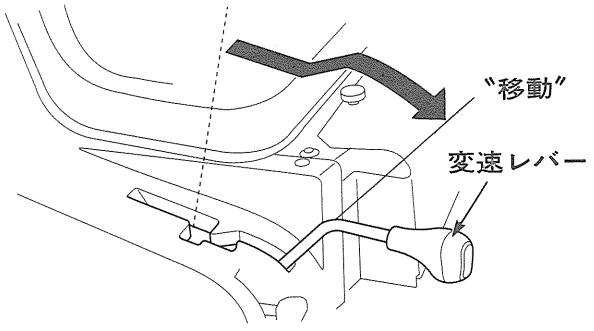
⚠注意

急に変速レバーを操作すると急発進し、思わぬ事故を起こすことがあります。

取扱いのポイント

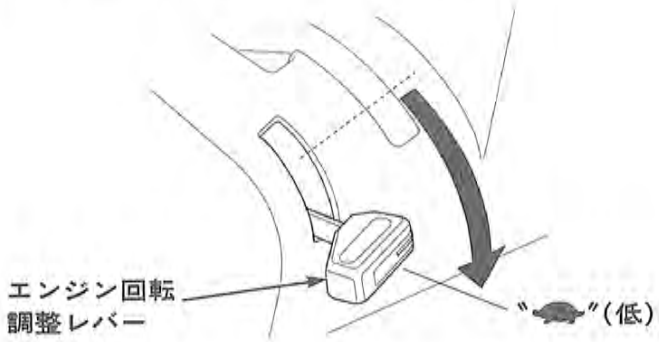
- 変速レバーの操作はブレーキを解除してから行なってください。ブレーキ使用中は変速レバーの操作ができません。
- ブレーキ ペダルに足を乗せたまま走行しないでください。





停車・エンジンの停止のしかた

1.エンジン回転調整レバーを"🐢"の位置にしてください。

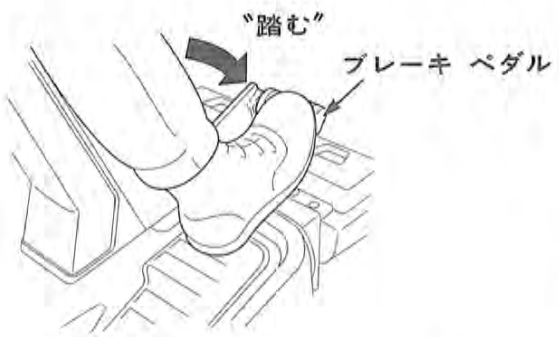


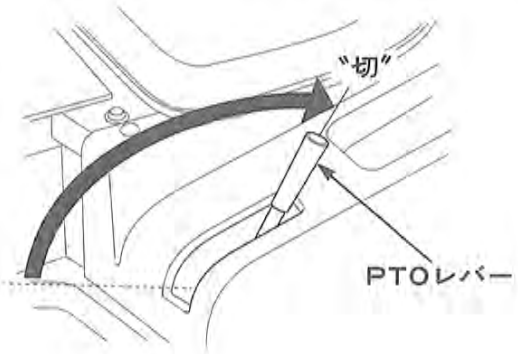
2.ブレーキ ペダルを踏み込みます。

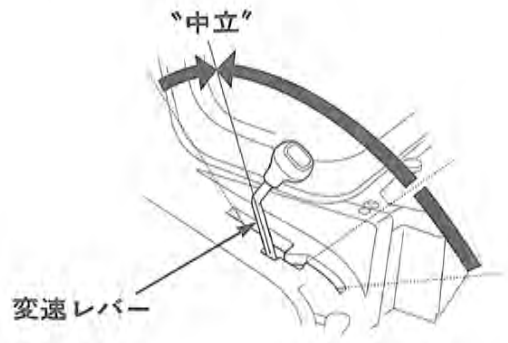
⚠注意

ブレーキ ペダルを踏むと変速レバーは"中立"の位置に、PTOレバーは"切"の位置に自動的に戻ります。レバーの近くに手を置かないでください。レバーに指がはさまりケガをする場合があります。

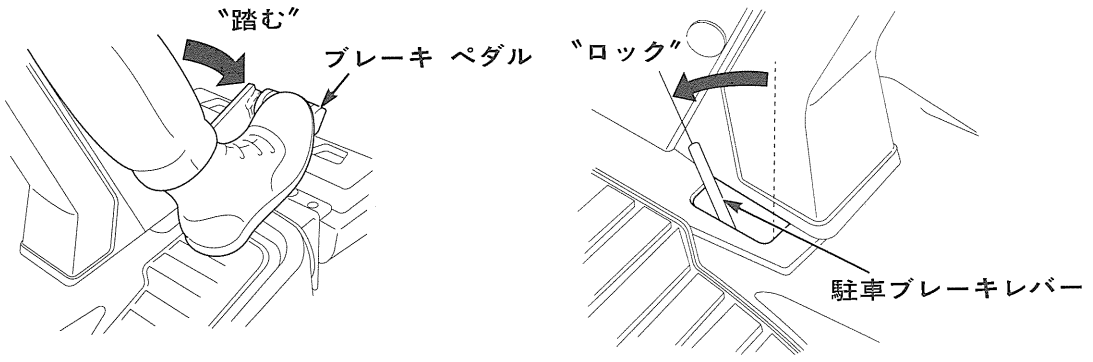
- 作業機を取付けている場合は、完全に本機が停止した後、油圧リフト レバーで作業機を地面まで下げてください。







3.ブレーキ ペダルを強く踏み込んだまま、駐車ブレーキ レバーを手で前へ倒しロックしてください。



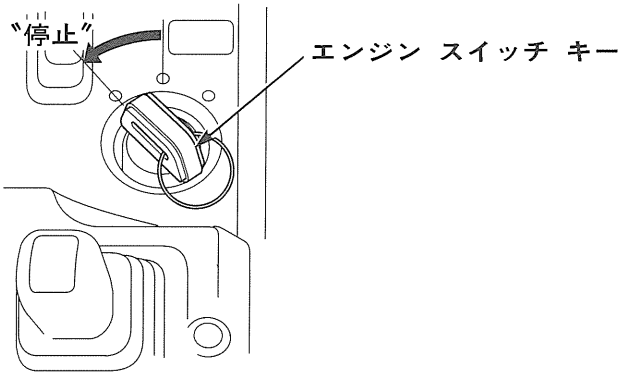
⚠注意

本機をやむをえず坂道で駐車する場合には、本機の重量に耐える石、木片等で下側の車輪に車輪止めをしてください。

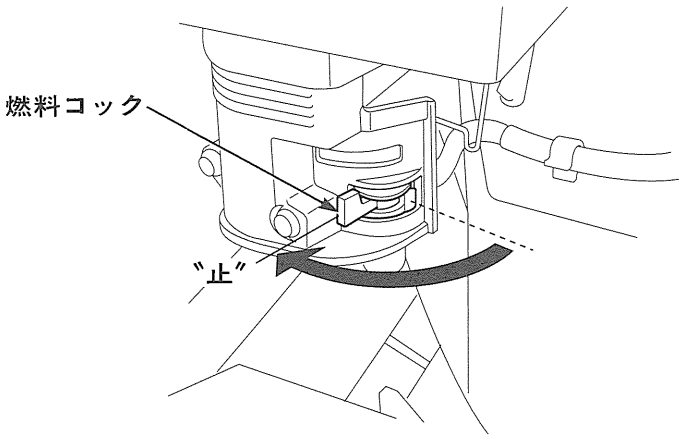
4.エンジン スイッチを〝**停止**〟にしてキーを外してください。

⚠警告

子供や許可を受けていない者がエンジンを始動しないように、本機から離れるときは必ずエンジンスイッチからキーを抜き取ってください。



5.燃料コックを〝**止**〟の位置にします。



旋回のしかた

旋回するときは、エンジン回転を下げ、車速を低くして、ゆっくりと旋回してください。

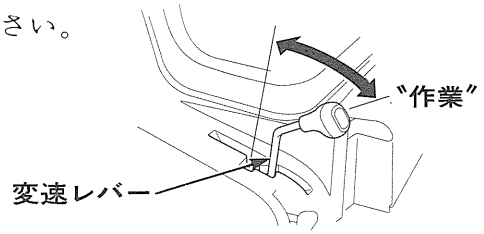
⚠警告

- **旋回するときは、周囲の安全を十分確認して旋回してください。**
- **高速で旋回したり、旋回中に急に速度を上げたりしないでください。横転などの重大な事故につながります。**
- **旋回は平らな場所で行ってください。やむをえず傾斜や段差のあるところで旋回する場合は速度を下げゆっくり行ってください。**

1.信地旋回(小回り旋回)のときは、変速レバーを〝**作業**〞の位置(30頁参照)にしてハンドルを旋回方向へいっぱいにまわしてください。

変速レバーが〝**作業**〞の位置以外ですとハンドルを回しても信地旋回はできません。

旋回完了後ハンドルを戻してください。



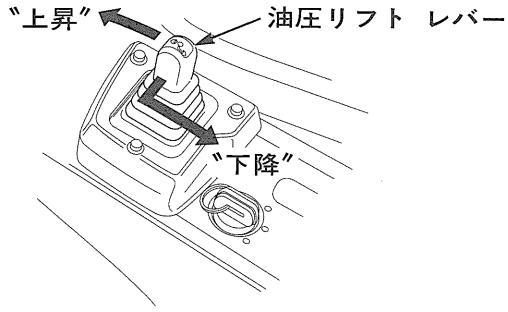
⚠警告

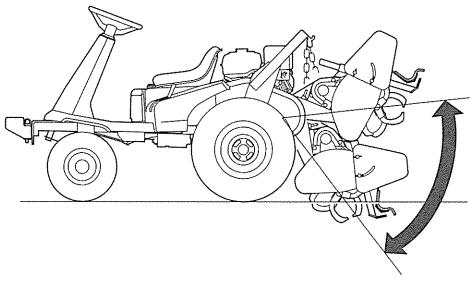
ハンドルを急に操作すると横転など重大な事故につながります。
ハンドル操作はゆっくり行ってください。

2.耕うん作業時で旋回するときは、作業機を油圧リフト レバーで上昇させて、旋回後下降させてください。

取扱いのポイント

旋回時は必ず作業機を上昇させ接地していないことを確認してください。
作業機が接地した状態で旋回すると本機や作業機が破損することがあります。





- 旋回中、ほ場にタイヤが潜り停止しそうな場合はハンドルを直進に戻すと脱出しやすくなります。
- 完全に停止するとハンドルを戻しても脱出できない場合があります。早めにハンドルを戻してください。

坂道での運転のしかた

坂道の状態に応じた速度を選び走行してください。

本機は特性上、変速レバーの位置が同じでも傾斜角度や土壌の質により速度が変化することがあります。変速レバーで適切な速度にしてください。

1.登り坂の場合

①坂の手前で一旦停止してください。

②エンジン回転調整レバーを〝🐢〟にしてください。

③変速レバーを〝**作業(低速)**〟の位置にしゆっくり発進してください。

2.下り坂の場合

①坂の手前で一旦停止してください。

②エンジン回転調整レバーを〝🐢〟にしてください。

③変速レバーを〝**作業(低速)**〟の位置にしエンジン ブレーキを使用してください。

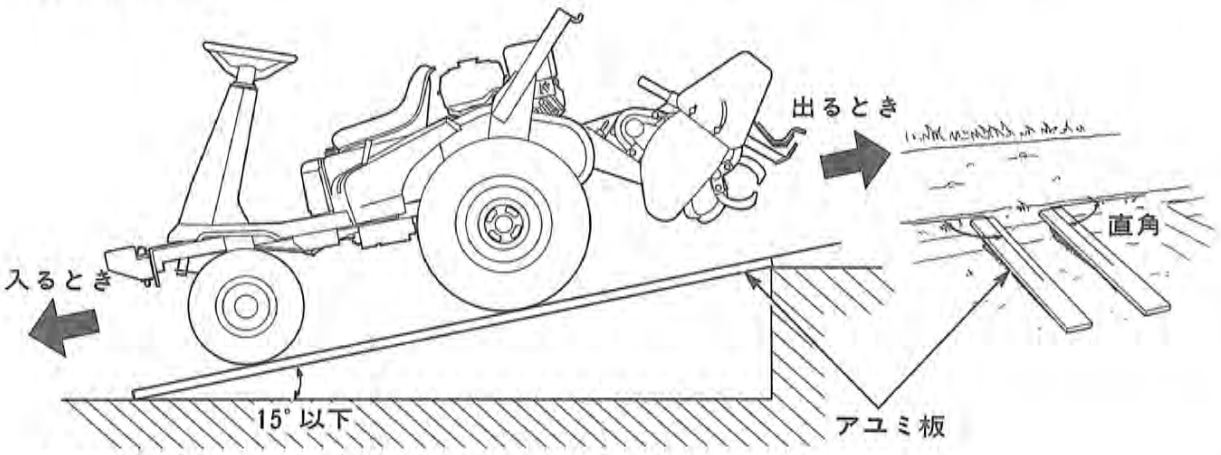
⚠警告

- **遅い車速で運転してください。**
- **坂道では急な変速操作をしないでください。**
- **坂道ではニュートラルリリースピンを押し込まないでください。**
- **坂道では駐車しないでください。やむをえず駐車するときは、駐車ブレーキをロックして、車輪止めをしてください。**

・登り坂での発進はとくにゆっくりと行ってください。

ほ場への出入り時の注意

1. ほ場への出入りは、高低差が大きいと危険ですのでアユミ板などを使用してください。
   ハンドルは直進にして直角に出入りし、十分注意してください。
2. ほ場への出入りは、斜めに登り降りせず直角に出入りしてください。
3. ほ場への出入りは、本機の前・後のバランスを考慮して慎重に行ってください。
   登り始めは、作業機を降ろして重心を下げ、本機の前・後輪が上ると同時に作業機を上げてください。



⚠警告

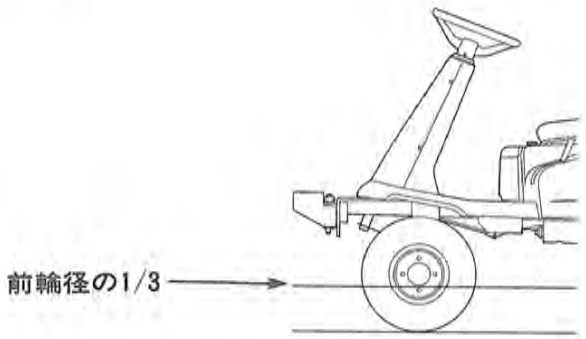
・遅い車速で運転し、急な変速操作はしないでください。

ぬかるみでの注意

土質等で異なりますが前輪径の1/3より車輪が沈むような場所では使用しないでください。

取扱いのポイント

本機に水やどろが浸入すると故障の原因になります。
水田では使用しないでください。



標準ロータリの取扱い

ロータリの着脱

⚠警告

- 着脱は、平坦な場所で、本機のエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて行なってください。
- 油圧シリンダーを上下させるとき以外は、エンジンスイッチを停止にして、キーを抜いてください。

⚠注意

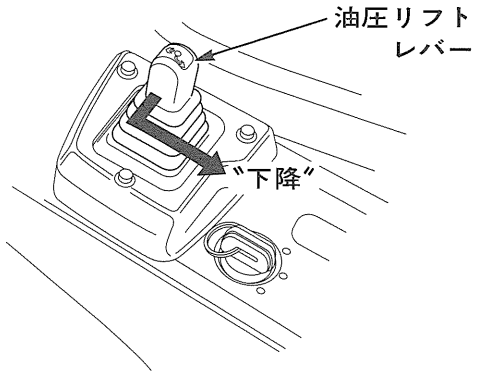
- 厚手の手袋を着用してください。
- 作業機に手や足がはさまれないように注意してください。

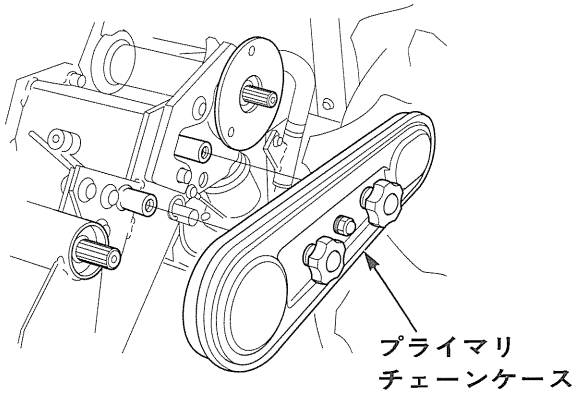
作業機の取外し

1.エンジン スイッチを〝**運転**〟の位置にしてください。

2.油圧リフト レバーを〝**下降**〟に操作し、作業機が地面に着くまでいっぱいに下げます。

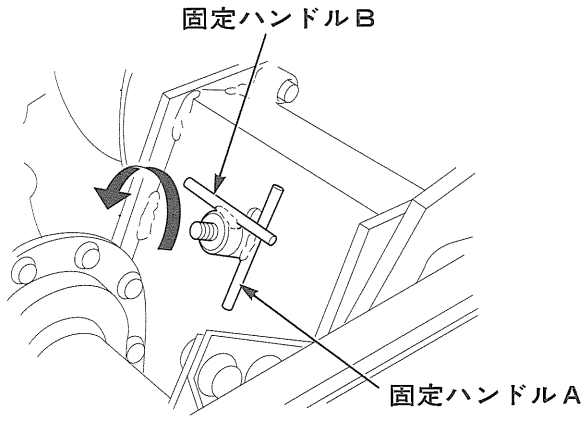
3.プライマリ チェーンケースを取外します。





4.固定ハンドルBをいっぱいにゆるめてから、固定ハンドルAをいっぱいにゆるめます。

5.油圧リフト レバーを〝**下降**〟に操作して油圧シリンダを最短に縮めます。



6. ヒッチから作業機を後方へ外します。

7. 作業機が倒れないように固定します。

8. エンジン スイッチを〝**停止**〟の位置に戻してください。

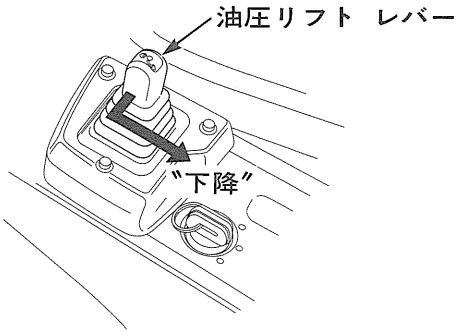
⚠警告

プライマリ チェーンケースを取外し、PTO軸を使用しないときは必ずPTO軸カバーを取付けてください。カバーを取り付けずに使用するとPTO軸に巻き込まれるおそれがあります。

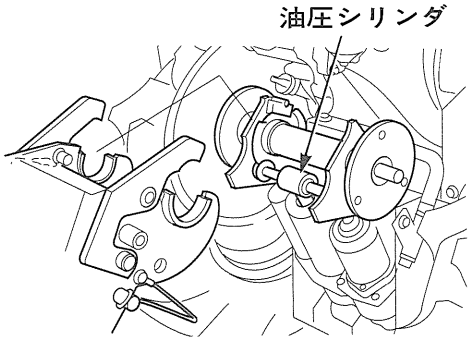
作業機の取付け

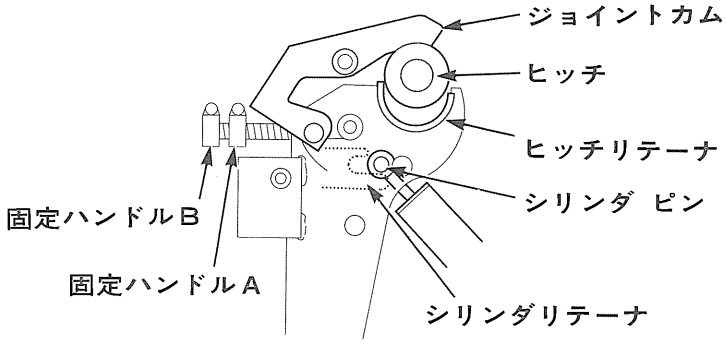
1. エンジン スイッチを〝**運転**〟の位置にしてください。

2. 油圧リフト レバーを〝**下降**〟に操作し、油圧シリンダを最短に縮めます。



3. 作業機の前を持ち上げ、ジョイントカムをヒッチに掛けます。





取扱いのポイント

左右のシリンダ リテーナの上にシリンダ ピンが乗るようにジョイント カムをかけます。

4. ジョイントカムがヒッチを押さえつけるまで固定ハンドルAを手で固くなるまで締めつけます。

・作業機の前を持ち上げ、ヒッチにヒッチリテーナをはめ込み、固定ハンドルAを締めると軽い力でまわせます。

取扱いのポイント

ヒッチにヒッチリテーナが完全に、はまり込むまで、固定ハンドルAを締めてください。はめ込みが不十分な状態やジョイントカムがヒッチから離れた状態で、油圧シリンダを作動させると、エンジンやヒッチなどが破損するおそれがあります。

5.油圧リフト レバーを〝**微調上昇**〟にし、作業機を10cm位持ち上げ、固定ハンドルAをさらに固くなるまで手で締めます。

6.固定ハンドルAが動かないように固定ハンドルBを手で締めます。

7.プライマリ チェーンケースを取付けます。

①本機側とロータリ側のシャフトにグリスを塗布してください。

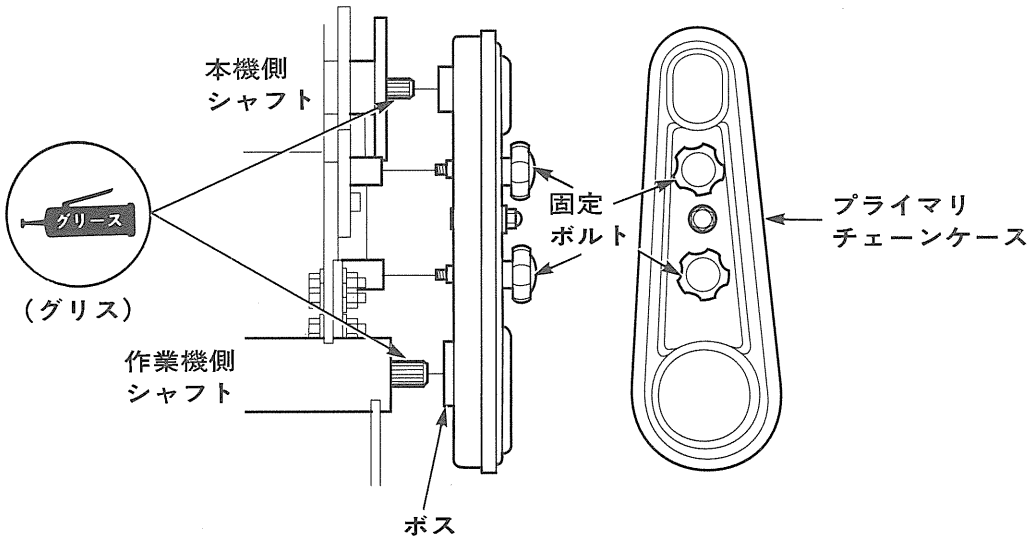
②チェーン ケースの巾の狭い方のスプロケットを本機側のシャフトに5mm位入れます。

③反対側のスプロケットを作業機側のシャフトに入れます。

・入れにくいときは爪軸を手で少しまわしてください。

④チェーン ケースをさらに奥まで入れ、2本の固定ボルトを手で固くなるまで締めます。

8.エンジン スイッチを〝**停止**〟の位置に戻してください。



取扱いのポイント

作業機側シャフトのパイプの中にプライマリ チェーンケースのボスを確実に入れます。

爪軸の取外し

⚠警告

- 着脱は、平坦な場所で、エンジン スイッチを停止の位置にし、駐車ブレーキをロックして行なってください。
- 油圧シリンダーを上下させるとき以外は、エンジン スイッチを停止にして、キーを抜いてください。

⚠注意

- なた爪や爪軸の着脱を行うときはクサリをフックにたるみなく引っかけ落下防止をしてください。(61頁参照)
- 厚手の手袋を着用してください。
- 作業機に手や足がはさまれないように注意してください。

1.左右のロータリ カバーとサイド カバーの取付ボルト4本を外し、カバーを外します。

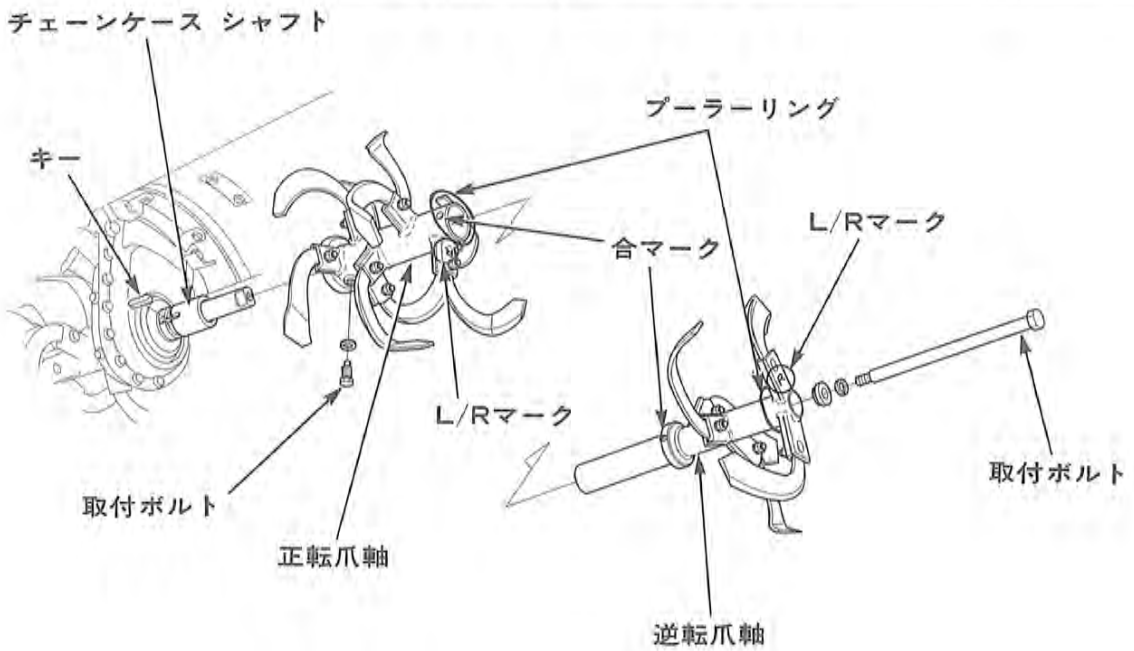
2.左右の逆転爪軸の取付けボルトを外し、逆転爪軸を抜きます。

3.左右の正転爪軸の取付けボルトを外し、正転爪軸を抜きます。

- 正転爪軸を抜くときにキーが外れる場合があります。
  紛失しないように注意してください。
- 爪軸が手で外せない場合は、プーラーリングにプーラーの爪を引っかけて爪軸を外してください。

取扱いのポイント

チェーンケース シャフト部に直接プーラーネジ部を押し当てない様、ナットなどで保護してください。シャフトのネジ部が破損する場合があります。



爪軸の取付け

⚠注意

- なた爪や爪軸の着脱を行うときはクサリをフックにたるみなく引っかけ落下防止をしてください。（61頁参照）
- 厚手の手袋を着用してください。
- 作業機に手や足をはさまれないように注意してください。

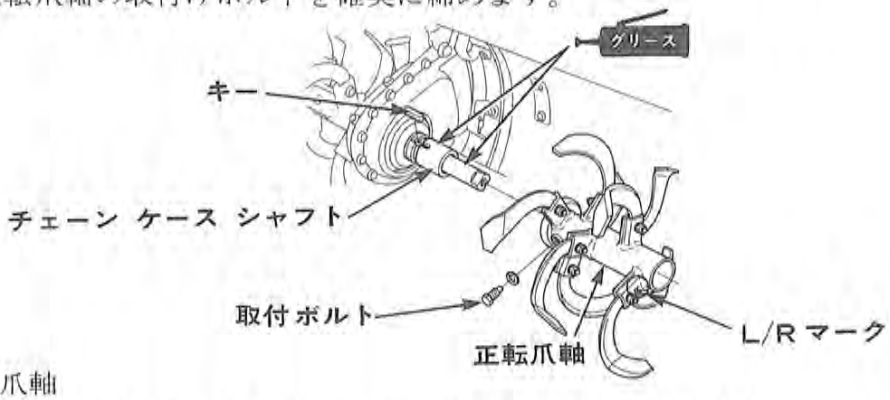
1.正転爪軸

①チェーンケース シャフトにグリスを塗布してください。

②正転爪軸のホルダ部のLマークを左側、Rマークを右側に使用します。

③正転爪軸のキー溝とチェン ケース シャフトのキーを合わせて取付けます。

④正転爪軸の取付けボルトを確実に締めます。



2.逆転爪軸

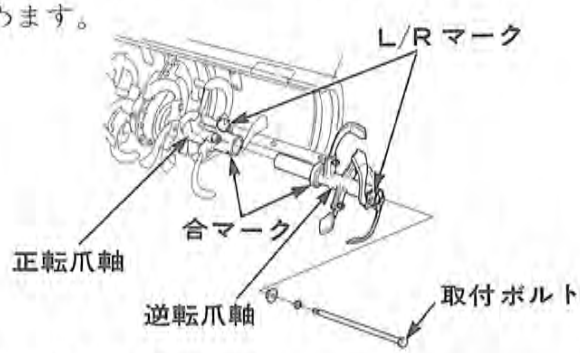
①正転爪軸の合マークをチェン ケースの真下方向へ向けます。

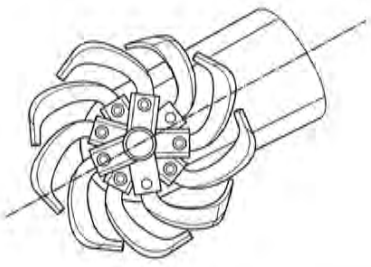
②逆転爪軸のホルダ部のLマークを左側、Rマークを右側に使用します。

③逆転爪軸の合マークをチェン ケースの真下方向へ向けて取付けます。

④逆転爪軸の取付けボルトを確実に締めます。

⑤左右のロータリ カバーとサイド カバーをロータリに取付け、取付けボルトを確実に締めます。



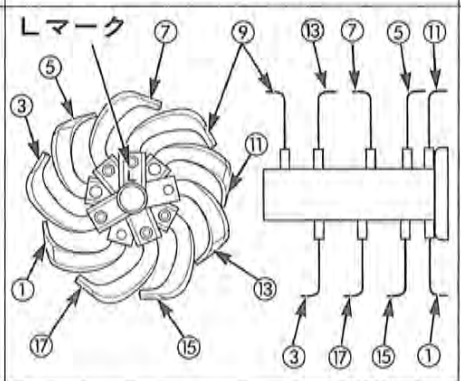
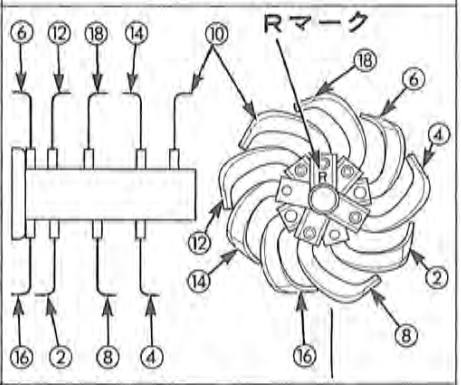
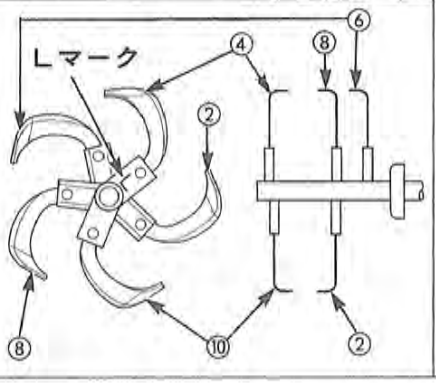
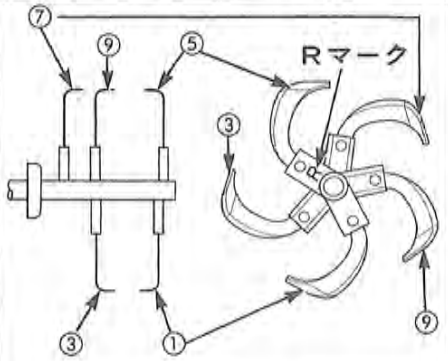


取扱いのポイント

- 爪軸の左右を確認してください。
- 爪軸が入りにくいときはロータリ軸を手で少しまわしてください。

なた爪と爪軸の組付け

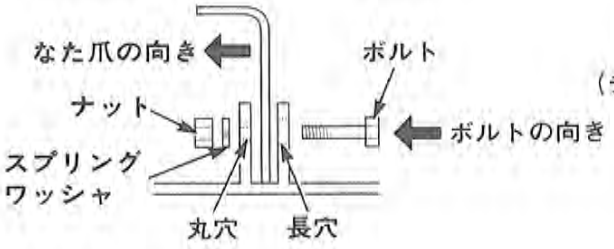
なた爪は、下図の通り、爪軸に組付けます。

	L(左)側爪軸	R(右)側爪軸
正転爪軸		
逆転爪軸		

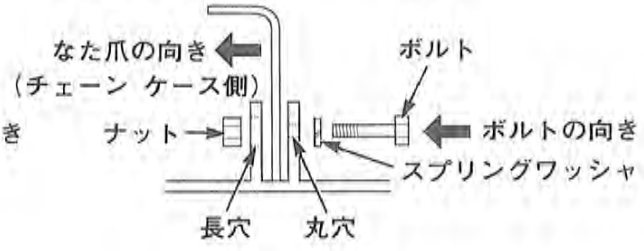
・なた爪の向く方向は、ボルトを差し込む方向と同じです。

※正転のNo１、６、11、16、のなた爪はナットを長穴に入れボルトにスプリングワッシャを組付けて取付けます。

(正転のNo１、６、11、16以外のなた爪)



(正転のNo１、６、11、16のなた爪)



耕深調整

⚠警告

エンジンスイッチを〝停止〟にし、駐車ブレーキをロックし、なた爪が停止していることを確認してから行ってください。

耕深調整は、尾ソリ又はクサリの調整で行ないます。ほ場や作業内容に応じて使用してください。

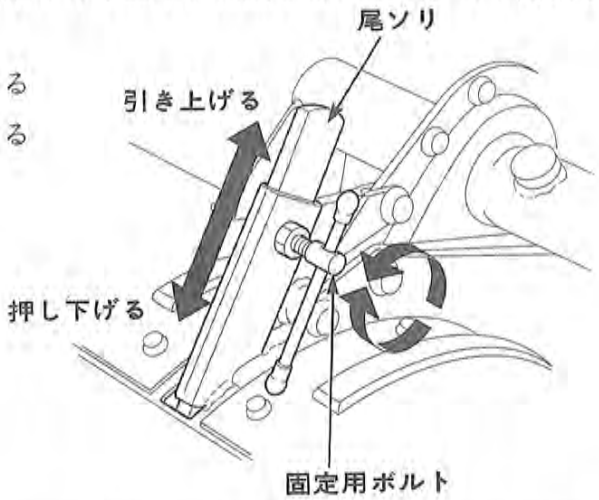
深さ調整

耕うん深さは固定用ボルトをゆるめ尾ソリを上下に移動することによって調整します。

調整のしかた

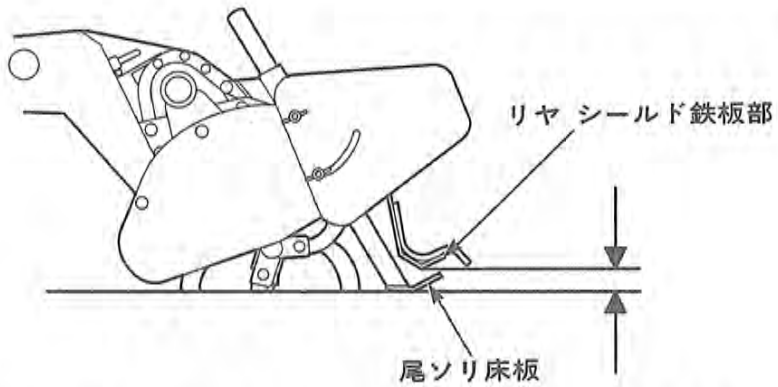
尾ソリを引き上げる…耕深が深くなる

尾ソリを押し下げる…耕深が浅くなる



取扱いのポイント

尾ソリの床板がリヤ シールド鉄板部より下にくる位置で上下の調整をしてください。尾ソリの床板がリヤ シールド鉄板部より上の位置で使用すると尾ソリとリヤ シールド鉄板部が接触しリヤ シールドが変形する場合があります。

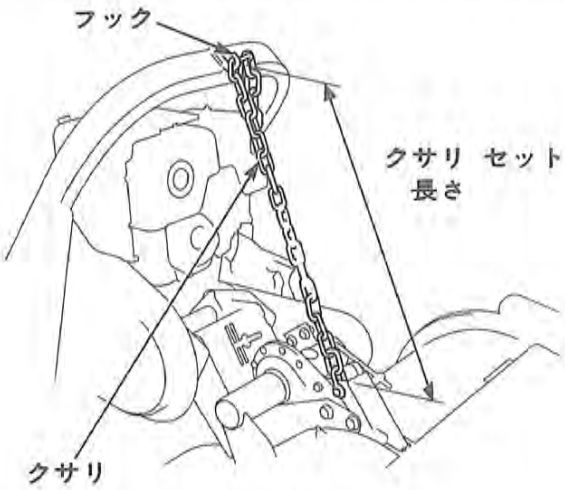


軟かいほ場(畑)では

軟かいほ場で耕深調整ができない場合は、クサリのフックに引っかける位置で耕深調整をしてください。(61頁参照)

クサリでの深さ調整

耕うん深さは、フックに引っかける
クサリの位置を変更して調整します。



調整のしかた

クサリ セット長さを長くする……耕深が深くなる。

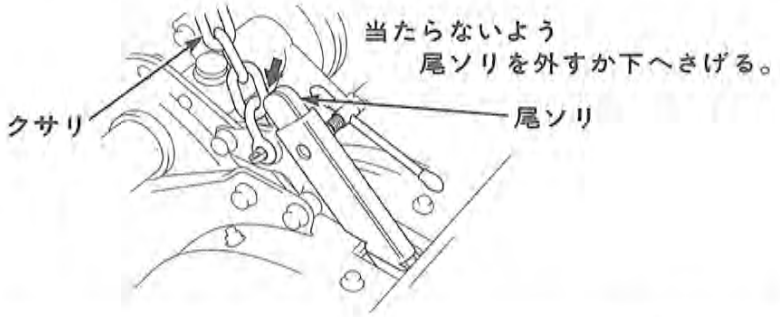
クサリ セット長さを短くする……耕深が浅くなる。

取扱いのポイント

- クサリで耕深調整するときは、尾ソリは取外してください。
- クサリを使用しないときは、クサリの先端をフックに引っかけてクサリが車輪等に巻込まれないようにしてください。

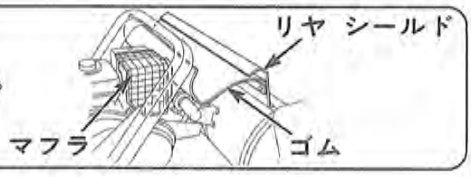
ロータリの落下防止

ロータリを上げた状態で、点検・整備・移動を行なうときは必ずクサリをフックに引っかけ、ロータリを下降させてクサリのたるみをなくして落下を防止してください。そのとき尾ソリはクサリに当らないよう取外すか、又は、下へ下げてください。



取扱いのポイント

ロータリを高く上げ、リヤ シールドを持ち上げるとマフラとリヤ シールドのゴムが接触し、ゴムが焦げることがあります。リヤ シールドを持ち上げるときはマフラとゴムが接触しないようにしてください。



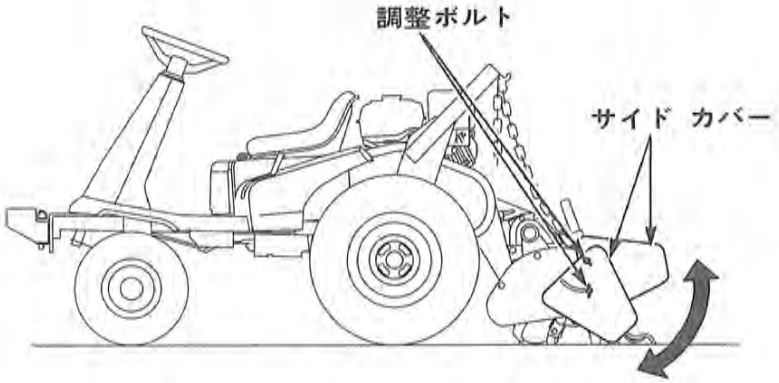
サイド カバーの調整

⚠警告

エンジン スイッチを〝停止〟にし、駐車ブレーキをロックし、ロータリ爪が停止していることを確認してから行ってください。

①調整ボルトをゆるめてサイド カバーを調整します。

②サイド カバーの先端が耕うん後の土の表面に軽く接触するようにサイド カバーを調整します。



耕うんの方法

①運転のしかたの注意に従ってください。(45頁参照)

②エンジンを始動し、エンジン回転調整レバーを〝🐇〟にします。

③ロータリが上がっていることを確認し、PTOレバーを〝**入**〟にしロータリ爪を回転させます。

④油圧リフト レバーを〝**下降**〟方向に操作してロータリを下げます。

⑤変速レバーを〝**作業**〟の位置へゆっくり動かし、耕うんを始めてください。

⑥耕深とサイド カバーの調整具合を確認してください。

⑦作業の速度は、本機フロアに貼られているラベルを目安にしてください。

⚠注意

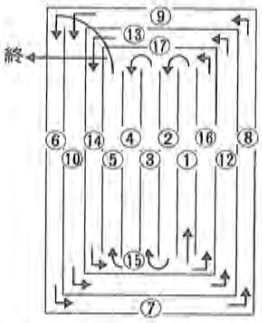
耕うん中、ロータリ中央の正転爪だけが土中の石に当たったり、硬い土を耕やしたときなどに、本機が飛び出す場合があります。本機が前へ飛び出した場合はブレーキ ペダルを強く踏み、本機を停止させてください。耕深を浅くし、作業速度を低くして耕うんを再開してください。

・硬いほ場(畑)は1度で耕うんせず、2～3回にわけて耕うんしてください。

⑧耕うんを終了するときは、変速レバーを〝**中立**〟にして本機を停止させ、油圧リフトレバーを〝**上昇**〟方向に操作してロータリを上げPTOレバーを〝**切**〟にしてロータリ爪の回転を停止してください。

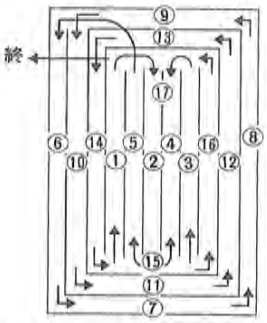
耕うん順序　　一般的な耕うん順序を示します

隣接耕の順序



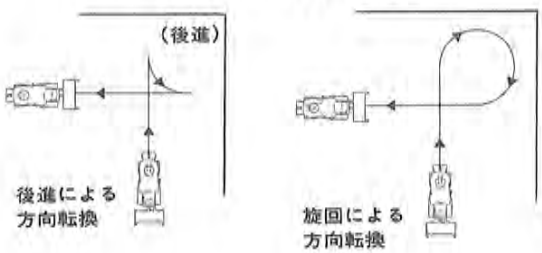
信地旋回により隣接耕を行ない、枕地(周囲)は回り耕で仕上げます。

一畦おき耕の順序



軟弱ほ場では上のように信地旋回せず一畦おき耕を行なうと、土寄せが少なく仕上ります。

方向転換のしかた



取扱いのポイント

耕うんしながら施回すると、本機やロータリが破損することがあります。施回は、必ずロータリを上昇させて、接地していない状態で行ってください。

アタッチメントの使用について

Honda 指定以外のアタッチメントは使用しないでください。
アタッチメントの種類によってはフロント ウエイトの追加が必要になります。必ず使用するアタッチメントに見合うフロント ウエイトを取付けてください。
アタッチメントの取扱説明書をよく読み理解してから使用してください。

⚠警告

アタッチメントに見合うフロント ウエイトを追加してください。
前輪の荷重が不足し、横転など事故を起こす場合があります。

フロント ウエイトの追加

標準装備のフロント ウエイトの上にウエイトを 2 個(28kg)追加することができます。
標準ロータリにアタッチメントを取付けたときは必ずウエイトを追加してください。

- 同時マルチ使用時に作業機を上昇させたときは、マルチ鎮圧輪を上げた状態にしてください。

⚠警告

- **標準ロータリにアタッチメントを取付けたときは傾斜地で使用しないでください。横転などの事故を起こす場合があります。**
- **内盛整形器の使用時に正転爪(逆転なし)を使用するときは硬いほ場で使用しないでください。本機が飛び出すことがあります。**

定 期 手 入 れ を 行 い ま し ょ う

⚠警告

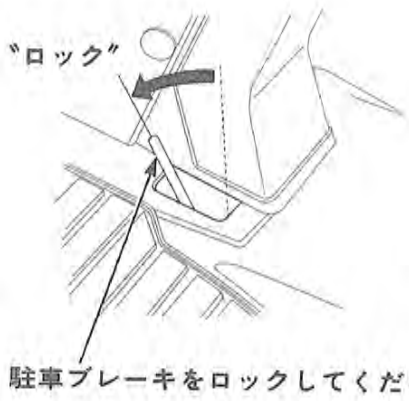
- **手入れを行うときは、本機を平坦な広い場所に置き、安全を確認してから行ってください。**
- **作業機を完全におろし駐車ブレーキをロックしてください。**
- **エンジンが始動しないようにエンジン スイッチ キーを外し、点火プラグ キャップをプラグから取外してから行なってください。**

・手入れや修理には必らず純正部品を使用してください。

本機の性能を維持するためには、定期的な点検整備が不可欠です。長持ちさせるためにも、定期的な手入れが必要です。

点検時期と点検整備項目が次頁の表に示してあります。





定期点検表

	点検項目＼点検時間		作業前点検	初回		50時間運転毎	100時間運転毎	300時間運転毎又は1年毎	2年毎
				20時間目	50時間目				
潤滑系統	エンジンオイル	点検 交換	○	○			○〈注3〉		
	変速機オイル	点検	○						
	オイル漏れ	点検	○						
燃料系統	燃料ろ過カップ	清掃					○		
	燃料タンク、燃料ろ過網	清掃						○〈注2〉	
	燃料の量、漏れ	点検	○						
	燃料チューブ	点検							○ 〈注2〉
冷却系統	冷却風取り入れ口	点検	○						
エアクリーナ	エアクリーナ	点検 清掃	○			○〈注1〉			
電装系統	バッテリー	液量　点検 端子　点検 充電状態　点検	○			○ ○〈注2〉			
	電気配線　各ターミナルの緩み クランプの状態	点検						○〈注2〉	
	点火プラグ	点検 清掃					○〈注4〉		
エンジン	吸入排気弁すき間	調整						○〈注2〉	
操作系統／車体	ハンドル　ガタ	点検	○						
	エンジン回転調整ケーブル	調整						○〈注2〉	
	タイヤ （締付ボルト、ナット、空気圧、亀裂、切損）	点検	○					○	
	ブレーキペダル　踏み代、効き	点検	○						
	駐車ブレーキ作動	点検	○						
	PTOレバー　遊び	調整		○〈注2〉				○〈注2〉	
	トーイン	調整						○〈注2〉	
	PTOベルト	点検						○〈注5〉	
	変速機ベルト	点検						○〈注5〉	
	タイロッド曲がり ボールジョイントのガタ							○〈注2〉	
	各部の締付点検、増締め 各部給油及びグリス塗布							○	
ロータリ	プライマリ チェーンケース取り付けボルト	点検	○						
	爪及び爪軸取り付けボルトの緩み	点検	○						
	ロータリ チェーンケースオイル	点検 交換		○〈注2〉		○		○〈注2〉	
	オイル漏れ	点検	○						

〈注1〉ホコリ等の多い所で使用した場合、エアクリーナの清掃は、作業に合わせ1日1回又は10時間毎に行ってください。
〈注2〉これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。
〈注3〉エンジンオイルの交換は、年間使用時間が100時間以下の場合は1年毎に実施してください。
〈注4〉点火プラグの点検、清掃は年間使用時間が100時間以下の場合は1年毎に実施してください。
〈注5〉損傷している場合には交換してください。

やさしい点検・整備

点検、整備は平坦な場所で本機を水平にして行ってください。

安全装置機構の点検

⚠警告

点検する前に本機の周囲に人や障害物がないことを確認してください。

・正しい運転手順で運転しないと安全装置機構が働いてエンジンが始動しないようになっています。

・安全装置機構に異常があるときは、お買いあげ販売店へお申しつけください。

ブレーキ スイッチの点検

①エンジン回転調整レバーを〝🐢〟の位置にしてください。

②変速レバーを〝**中立**〟にし、PTOレバーを〝**切**〟にしてください。

③駐車ブレーキを解除し、ブレーキを踏まないでエンジン スイッチ キーを〝**始動**〟の位置にし、スタータ モータが作動しないことを確認してください。

④ブレーキ ペダルを踏み込みエンジン スイッチを〝**始動**〟の位置にし、スタータ モータが作動することを確認してください。

⑤エンジン スイッチ キーを〝**停止**〟の位置に戻し、駐車ブレーキをロックしてください。



シート スイッチの点検

①ブレーキを踏むかまたは駐車ブレーキをロックし、エンジン回転調整レバーを〝🐢〟の位置にしてください。

②シートにすわりエンジン スイッチ キーを〝**始動**〟の位置にし、エンジンを始動してください。

③ブレーキを解除してシートから腰を浮かせたときにエンジンが停止するのを確認してください。

④エンジン スイッチ キーを〝**停止**〟の位置に戻してください。



エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

交換時間　初回：20時間運転目　以後：100時間運転毎、または1年毎。

●推奨オイル：4サイクル ガソリン エンジン オイル
Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)
またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE10W-30

規定量：1.1ℓ　オイルをご使用ください。

取扱いのポイント

- **低温時(気温10℃以下)では、Honda純正ウルトラU汎用SAE10W-30のオイルをご使用ください。**
- **寒冷時では、API分類SE、SFまたはSG級相当のSAE5W-30のオイルをご使用ください。**

交換のしかた

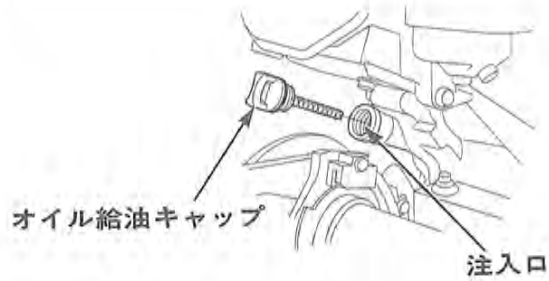
⚠注意

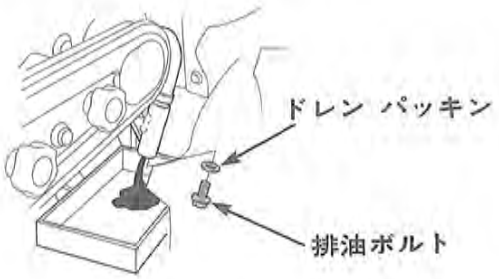
エンジン停止直後はオイルの油温、エンジン、マフラなどが非常に熱くなっていますのでエンジンが冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

エンジン オイル給油キャップを外し、排油ボルトをゆるめてください。
排油ボルトを外しオイルを抜いてください。排油ボルトのドレン パッキンを新しい部品と交換してください。再使用するとオイル漏れの原因になります。オイルがぬけたら排油ボルトを確実に締付けてください。新しいエンジンオイルを口元まで注入してください。
注入後キャップを確実に締付けてください。

取扱いのポイント

- **オイルを入れすぎないよう、注入後必ず点検してください。オイルが少ないときはもちろんのことですが、入れすぎることもエンジンの故障の原因になります。**
- **オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。**
- **オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。**
- **メーカーやグレードの異なるオイルを混入しないでください。**





燃料ろ過カップの清掃

燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

清掃時期

100時間運転毎

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
ろ過カップを清掃するときは
・エンジンを停止してください
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近付けないでください。
・ガソリンはこぼさないように入れてください。万一こぼれたときは、布切れなどで完全にふき取り、火災や環境に注意して処分してください。

取扱いのポイント

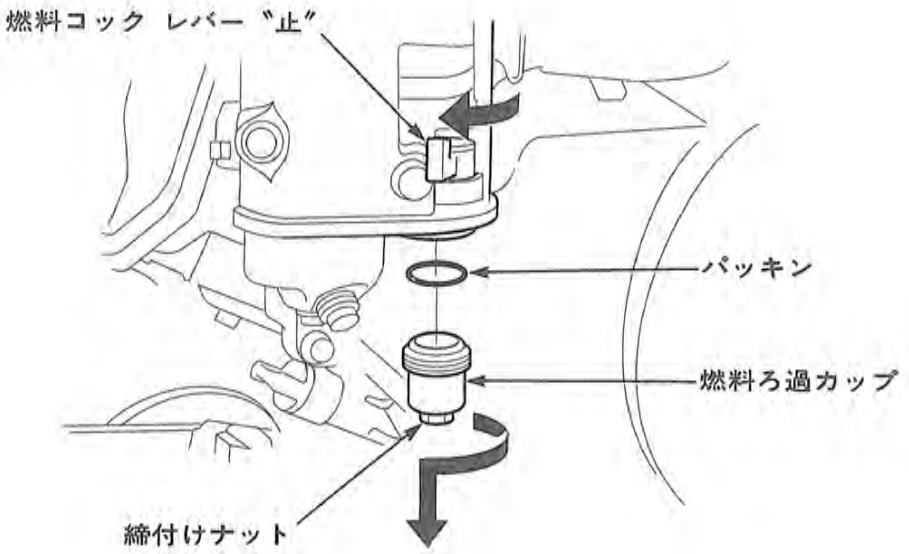
・取付けるときは、ろ過カップの中にゴミやホコリが入らないように注意してください。
・組付け後燃料もれのないことを確認してください。

1.燃料コック レバーを〝止〟にします。

2.締付けナットをゆるめ燃料ろ過カップを取外します。

3.燃料ろ過カップを洗い油でよく洗い底にたまったゴミや水を取除いてください。

4.清掃後、ガソリン漏れのないよう締付けナットを確実に締付けてください。



エアクリーナの清掃・交換

エアクリーナが目詰りすると出力不足や燃料消費量が多くなるので定期的に点検・清掃・交換を行ってください。

⚠警告

洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
換気の良い場所で行ってください。

清掃時期　50時間運転目

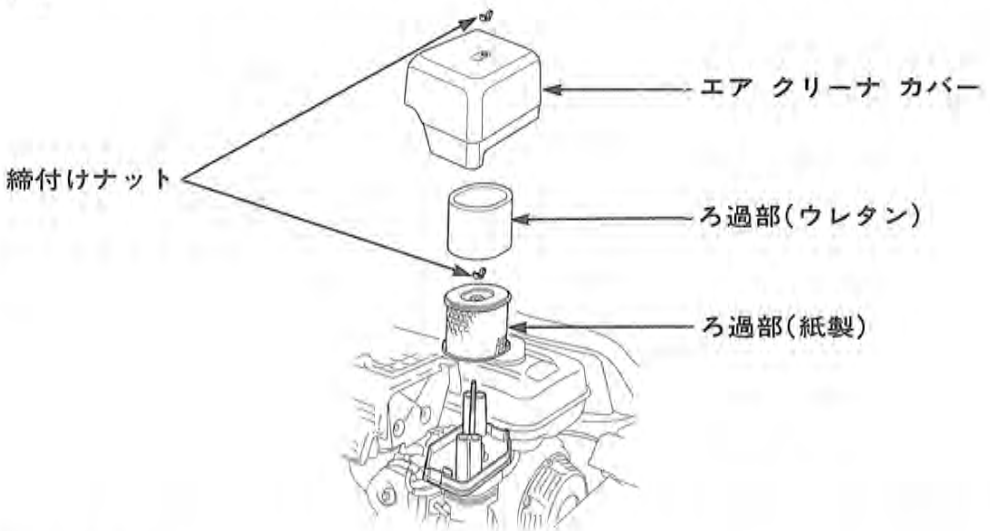
ホコリの多い場所で使用した場合は１日１回または10時間毎。

1.締付けナットをゆるめ、図のようにエアクリーナカバーを取り、ろ過部を取外します。

2.ウレタンのろ過部は洗い油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。オイルに浸した後固く絞ってから取付けます。

3.紙のろ過部は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。

4.点検後はエアクリーナカバーを確実に取付けたあと接続部がはずれていないか確認してください。



取扱いのポイント

- **エアクリーナカバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エアクリーナカバーやろ過部(ウレタン・紙製)を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。**

点検プラグの清掃・調整

電極が汚れたり、火花すき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています、やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

清掃時期

100時間運転毎

清掃のしかた

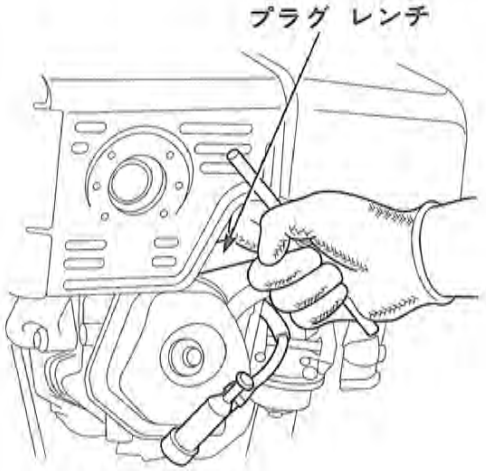
1.点火プラグキャップを取外します。

2.プラグレンチで点火プラグを取外します。

3.点火プラグを清掃します。

プラグの清掃はプラグクリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

・プラグクリーナが無いときは、針金かワイヤブラシで汚れを落としてください。



調整

4.側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。

火花すき間：0.7～0.8mm



《標準プラグ》

BP6ES、BPR6ES　（NGK）

W20EP-U、W20EPR-U　（DENSO）

取扱いのポイント

- 故障の原因となるので標準以外のプラグを使用しないでください。
- プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締め付けてください。
- 点検調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

バッテリの点検

点検時期　50時間運転毎

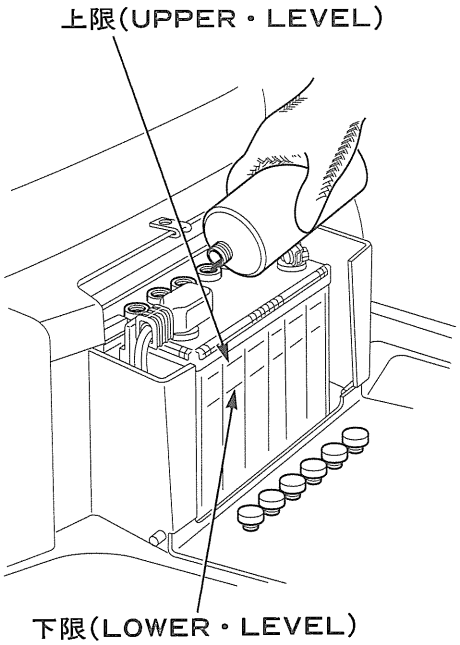
バッテリの液面が各槽とも**上限**(UPPER・LEVEL)と**下限**(LOWER・LEVEL)の間にあるか点検してください。

補　　給

少ないときはキャップを外し、バッテリ補充液(蒸留水)を**上限**(UPPER・LEVEL)まで補給します。

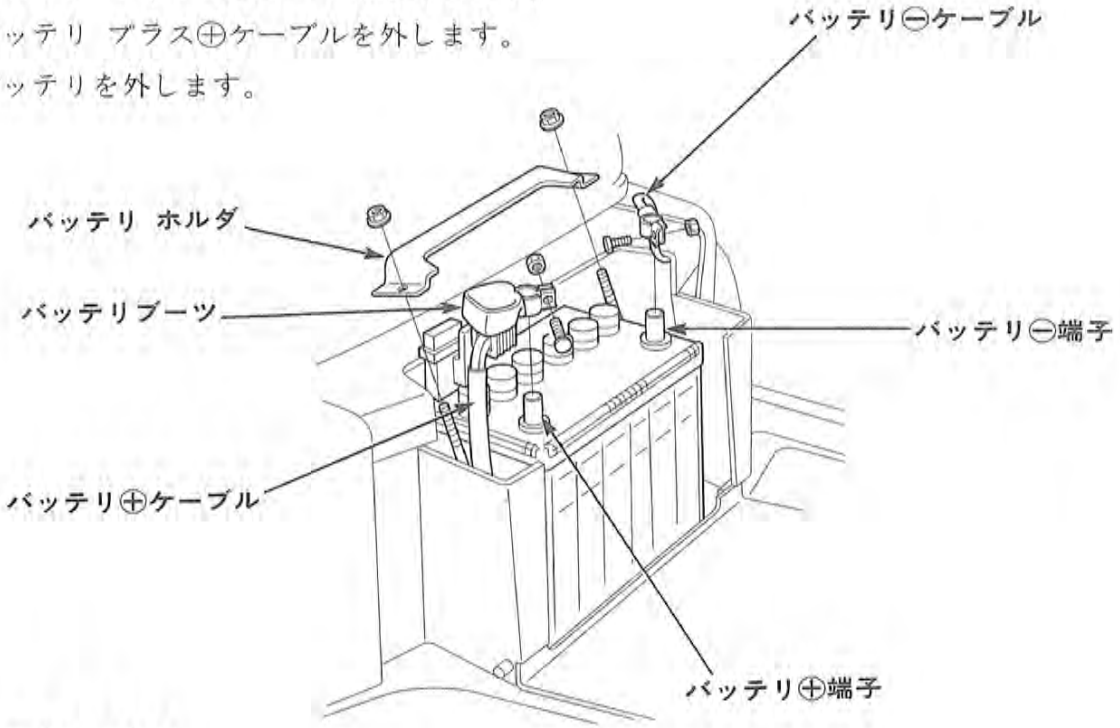
⚠警告

- バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発のおそれがあります。
- バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリ補充液(蒸留水)を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐食させる原因となります。
  上限(UPPER・LEVEL)以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼしたときには、必ず水洗いをしてください。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときは、すぐに大量の水ですくなくとも15分間以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。
- 本機へ搭載する以外の用途には使用しないでください。
- 充電は換気に十分注意し、換気の悪い場所で、行わないでください。
- バッテリの充電をするときは、バッテリのキャップをすべて外してください。



バッテリの取外し

1.メインテナンス カバーを開けます。
2.バッテリ ホルダを取外します。
3.バッテリ マイナス⊖ケーブルを外します。
4.バッテリ プラス⊕ケーブルを外します。
5.バッテリを外します。



バッテリの取付け

1.バッテリを元の位置にセットします。
2.バッテリ プラス⊕ケーブルをプラス⊕端子に接続し、ナットを締付けます。
バッテリ ブーツをプラス⊕端子にかぶせます。
3.バッテリ マイナス⊖ケーブルをマイナス⊖端子に接続し、ナットを締付けます。
4.バッテリ ホルダを取付けます。

端子の手入れ

端子のゆるみ、腐蝕は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは締めつけてください。端子に白い粉がついているときは、お湯で清掃し、接続後グリースを塗布してください。

ヒューズの点検・交換

ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れるおそれがあります。

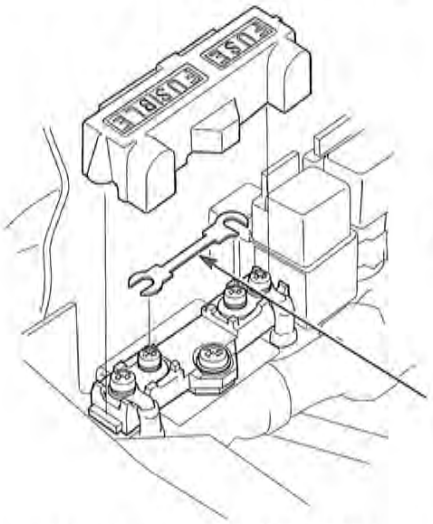
⚠警告

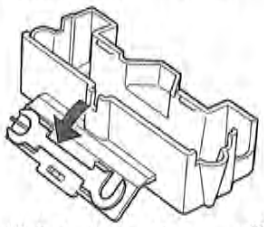
指定ヒューズ以外のもの、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線コードなどを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。火災を引き起こすことがあります。

メイン ヒューズはシートの下にあります。

メイン ヒューズの予備はヒューズ ケースにあります。

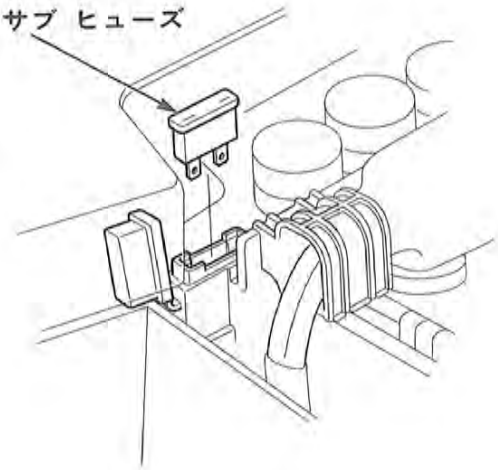
サブ ヒューズはバッテリ⊕端子の横のバッテリ コードにあります。





予備(メイン ヒューズ)

メイン ヒューズ



メイン ヒューズ(規定容量)	サブ ヒューズ(規定容量)
55A	15A

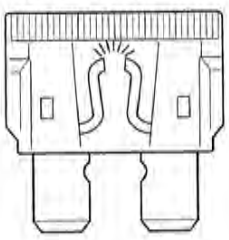
点検・交換

下図のようにヒューズが切れていないか点検してください。切れていたら新しいヒューズと交換してください。

メイン ヒューズ



サブ ヒューズ



なた爪の点検・整備

⚠警告

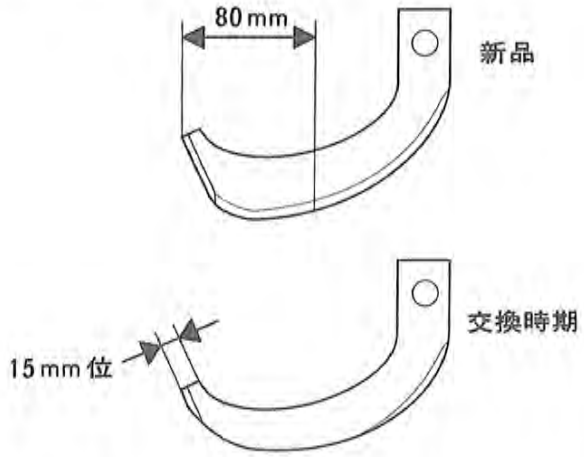
- 点検、交換は平坦な場所でエンジンを止め、駐車ブレーキをロックしてから行ってください。
- 万一の落下にそなえて、ロータリを上げるときは、クサリをフックにたるみなく引っかけてください。(61頁参照)
- このロータリは、内側と外側のなた爪が逆回転します。なた爪の点検や交換をする場合はなた爪の動きに十分注意してください。なた爪が思わぬ方向に回転しけがをするおそれがあります。

⚠注意

手にケガをしないよう厚手の手袋を着用してください。

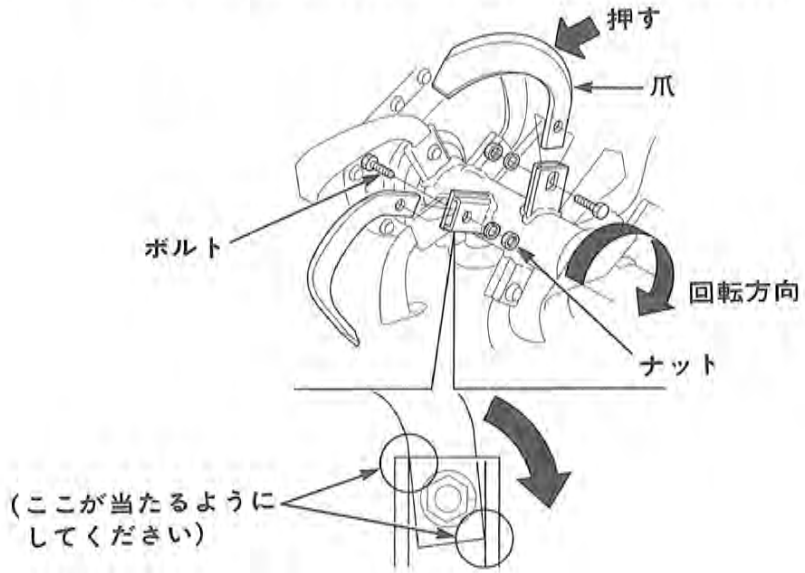
なた爪の交換時期

なた爪先端から80mmの範囲内で、なた爪巾が摩耗により15mm以下になったら、なた爪の交換時期です。
効率の良い耕うん作業の為に、なた爪は早めにお取替えください。



なた爪の締付け

なた爪をロータリの回転方向と逆方向に押しながら、ナットを締付けてください。



ロータリ チェーン ケース オイルの点検

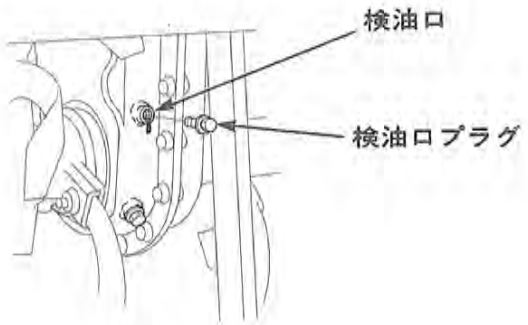
点検時期　50時間運転毎

点検

①平坦で水平な場所でロータリを地面に着くまで下げてください。

②チェーン ケースの検油口プラグを外し、検油口までオイルが入っているか確認してください。

③検油口までオイルが入っているときは検油口プラグを確実に締付けてください。



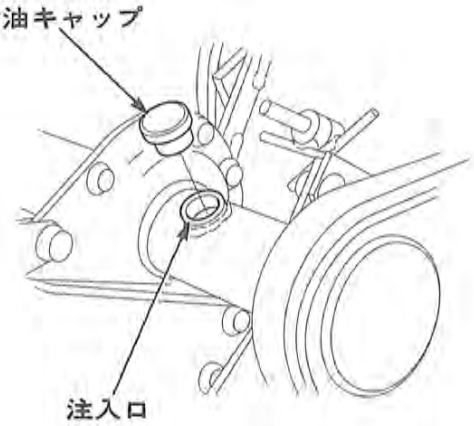
補給

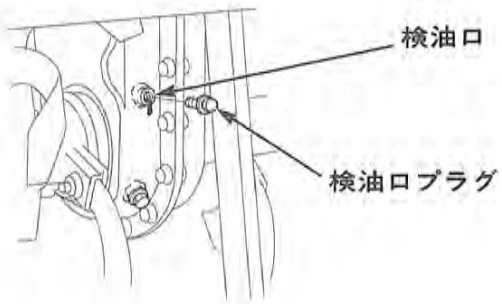
①オイル給油キャップを外してください。

②注入口から新しいオイルを補給し、検油口からオイルが流れ出るまで補給してください。

③検油口プラグを確実に締付け、オイル給油キャップを取付けてください。

●推奨オイル：Honda 純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)
またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。





変速ベルト・PTOベルトの点検

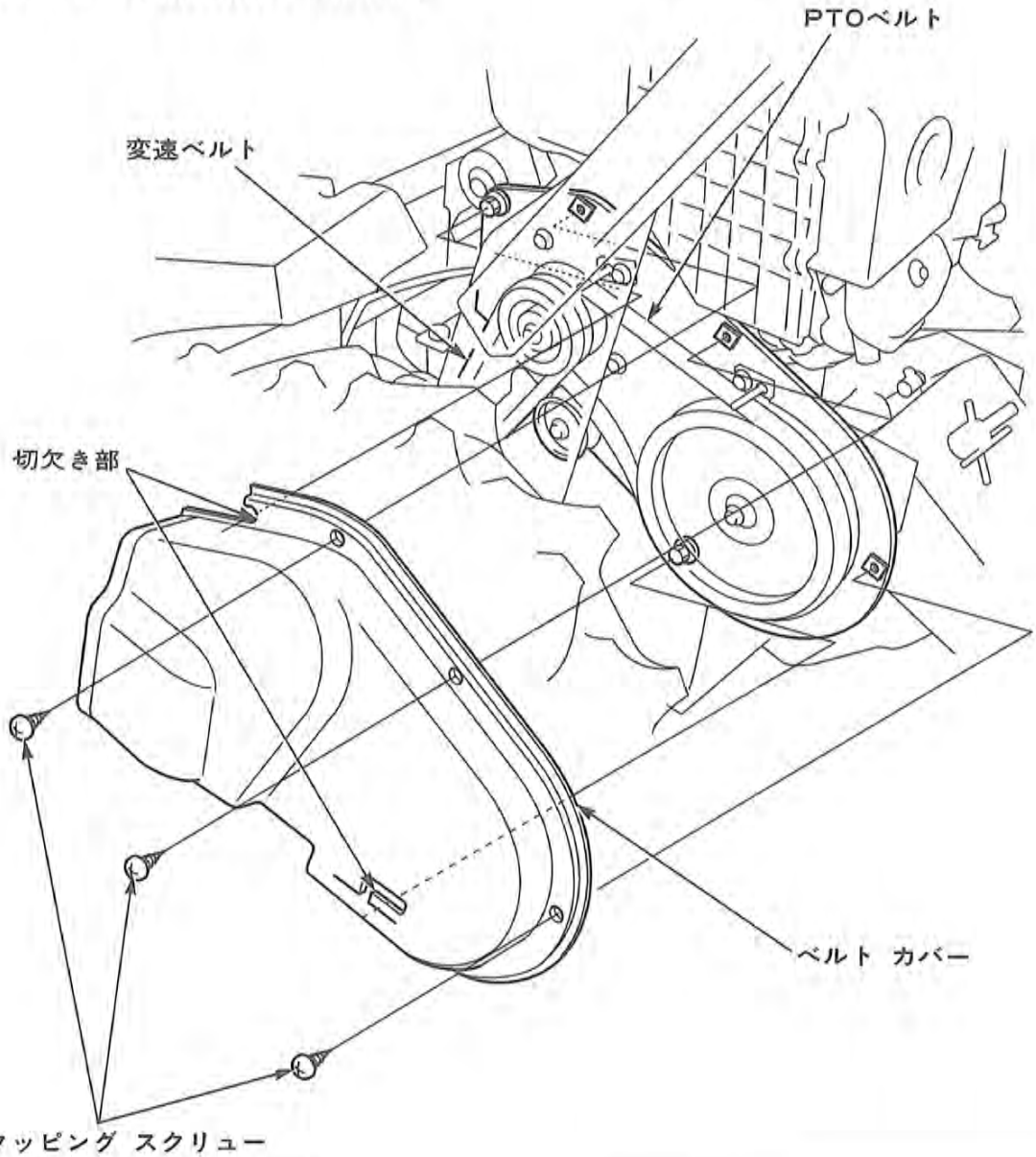
点検時期　300時間運転毎または１年毎

①ベルト　カバーを取付けているタッピング　スクリュー３本を外し、ベルト　カバーを後方へスライドさせ取外します。

②変速ベルトとPTOベルトに著しい亀裂、損傷、摩耗がないか点検してください。

③変速ベルトとPTOベルトに著しい亀裂、損傷、摩耗があるときはお買いあげ販売店にお申しつけください。

④取付けるときはベルト　カバーの切欠き部をボルトに通してからPTOベルト　タッピングスクリューを締め付けてください。

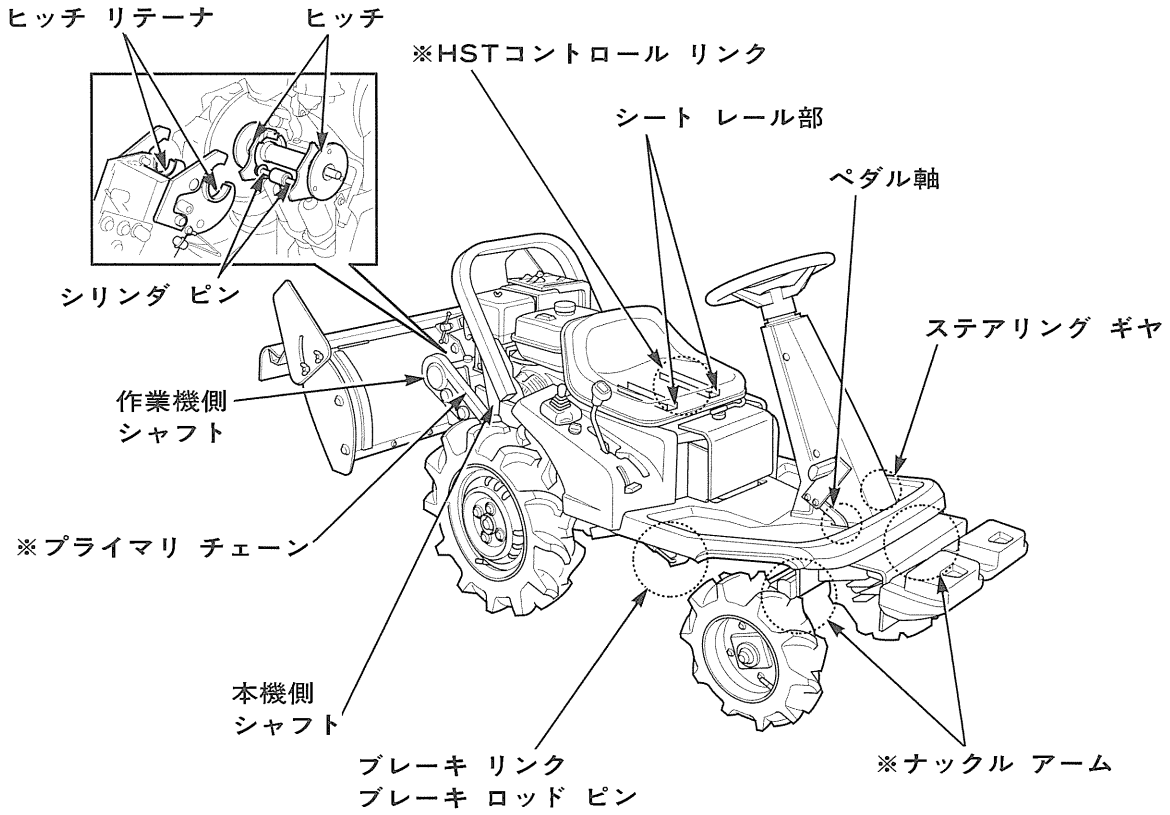


各部のゆるみ点検、増締め、グリス塗布

点検時期　300時間運転毎または１年１回

・各部のゆるみを点検してください。もしゆるんでいたら確実に締付けを行ってください。

・グリス塗布箇所



・※専用工具を必要としますのでお買いあげ販売店にお申しつけください。

運　搬　・　保　管　の　し　か　た

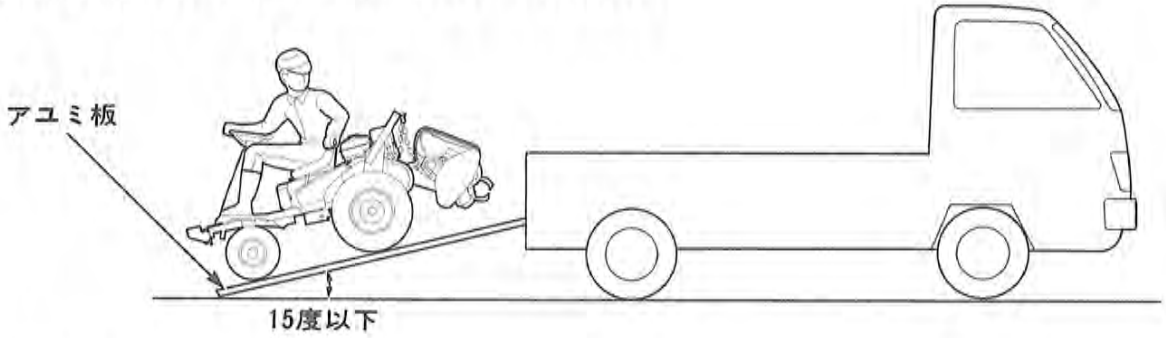
運搬(トラックへの積み降しのしかた)

①積込むときは、必ず傾斜角度15度以下になるように十分な強度と長さのアユミ板を使用し、本機の車輪幅に合わせ確実にセットしてください。

②本機の車輪とアユミ板を一直線上に合わせ、作業機側から低速で積込んでください。

③ハンドル操作は落輪しないように慎重に行ってください。

④後進時は後方の安全を十分に確認してください。



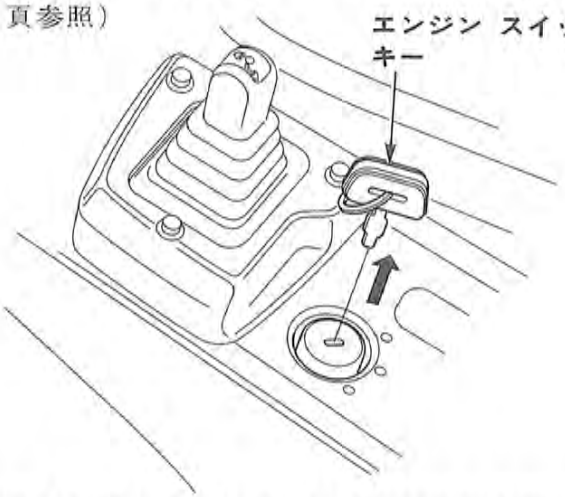
⚠警告

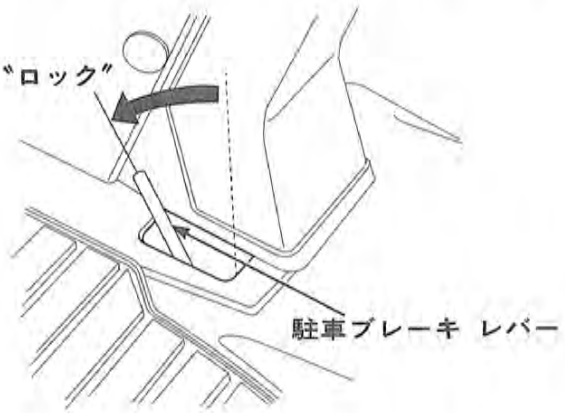
- **遅い車速で運転し、途中で変速しないでください。**

⚠注意

- **万一積込む途中でエンストしたときは、すぐにブレーキ ペダルを踏み、再度エンジンをかけて、ブレーキ ペダルを放してから、前後進レバーをゆっくり動かし、積み込みを再開してください。**
- **積込み、積降ろし作業は２人以上で、安全を確認しながら行ってください。**

⑤積載後は、ロータリを下げ、駐車ブレーキをロックし、エンジンを停止し(49頁参照)、エンジン スイッチ キーを外します。ロープなどで本機を確実に固定してください。(81頁参照)





⑥本機を降ろす場合は、積込みの逆の手順で安全に注意して行ってください。

●軽トラックへの積み降ろしのしかた

軽トラックに本機を積み降ろしする場合は、前頁の運搬の手順の他、次の手順を追加して行ってください。

①積み込む前に、ロータリから尾ソリを外してください。

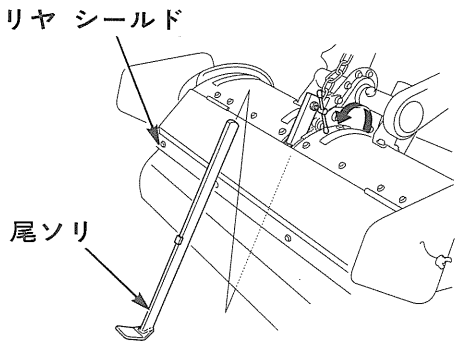
②積み込む前に、リヤ シールドを持ち上げ、落ちないようにひもなどで固定してください。

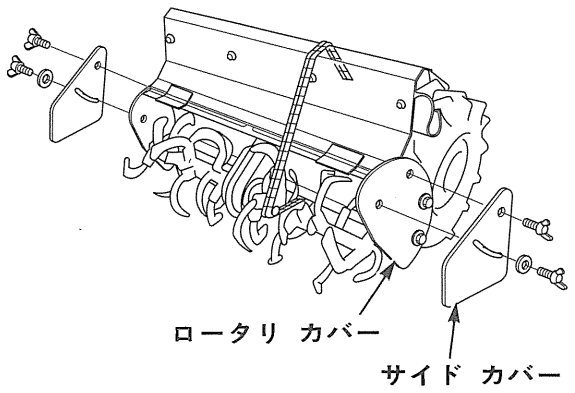
③積み込む前に、ロータリからサイド カバーを外してください。

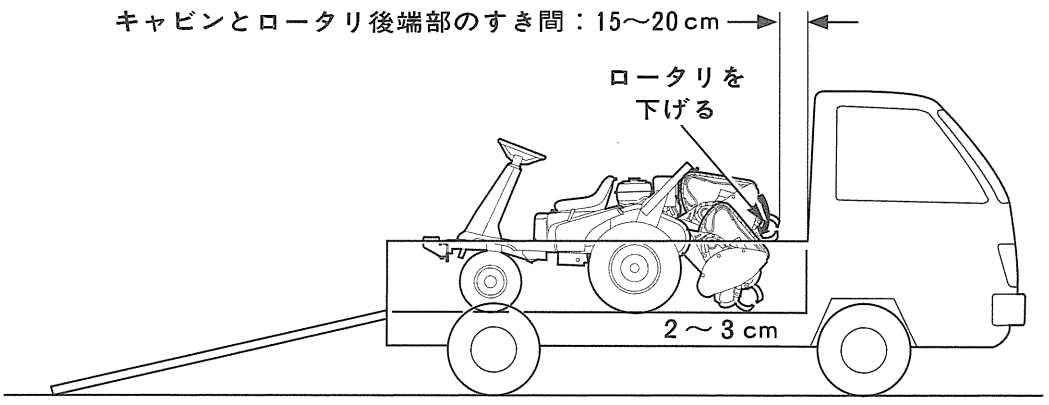
④積み込む途中で、ロータリ後端部と軽トラックのキャビンとの距離が15～20cmになったら一担停止します。ロータリを荷台の床との距離が２～３cmになるまで下げ、さらにゆっくり後進してください。

⑤本機が荷台に載ったらロータリを下げ、駐車ブレーキを停止し（49頁参照）、エンジンスイッチ キーを外します。

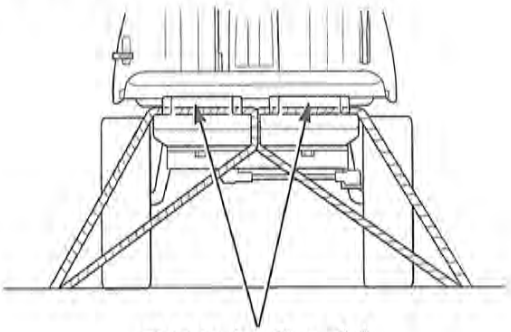
⑥本機の後側をロープなどで固定するときはリヤ アクスル チューブに布などを巻いてください。（81頁参照）





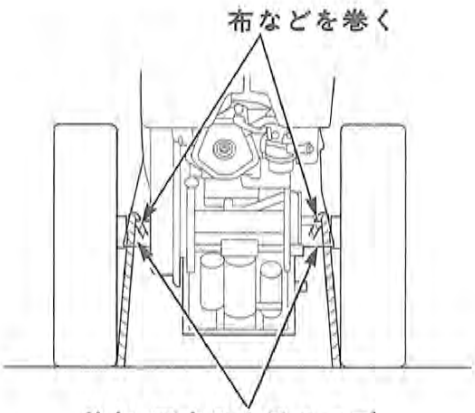


ロープなどのかけかた



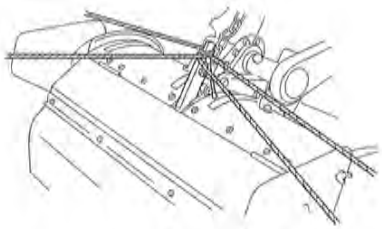
フロント ウェイト

（フロント ウェイト取付部）



リヤ アクスルチューブ

（リヤ アクスル チューブ タイヤの裏）



（ロータリの尾ソリ上部）

取扱いのポイント

リヤ アクスル チューブにロープを巻きつけるときは、フレームのエッジでロープを傷つけないよう、ロープを布などで保護してください。

使用後の手入れ

⚠注意

エンジン停止直後はエンジン、マフラーなどが非常に熱くなっていますのでエンジンが冷えてから行ってください。
やけどをするおそれがあります。

各部の清掃を行い(特にマフラ及び、エンジンの高温部分のゴミ等)、格納するときは作業機をいちばん下まで下げ、エンジン、マフラが完全に冷えてから格納してください。

取扱いのポイント

本機を洗うときはエア クリーナのカバー締付け部付近、電装部品、およびキャブレータに水がかからないように注意してください。これらの部分に強く水がかかると内部に水が侵入し故障の原因になります。

長期間使用しない場合の手入れ

本機を長期間使用しないときは、次の項目の手入れを行った後格納してください。

1.次回の使用に備え、不具合箇所を整備し、定期点検項目の確認を行ってください。

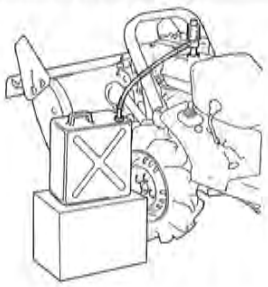
2.燃料タンク、キャブレータ内の燃料を抜いてください。

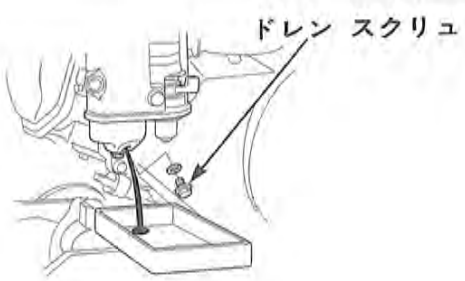
①燃料コック レバーを"出"の位置にして、ドレン スクリュをゆるめて、燃料を燃料用の安全な容器に受けてください。

②完全に燃料が抜けたら、ドレン スクリュを確実に締めて燃料コック レバーを"止"の位置にしてください。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ドレンつまみの締め方がゆるいと次回に使用するときに、燃料漏れの原因になります。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。





3.各部にグリースを塗布してください。(78頁参照)

4.タイヤの空気圧は、標準より少し多めに(約10%増)入れてください。

5.各部の配線、バッテリ コード、燃料、油圧配管などの亀裂、被覆の破れ、コード クランプの外れは確実に点検、整備してください。

取扱いのポイント

カプラ等の電装品には防錆剤などを塗付しないでください。

6.作業機を地面に着くまで降ろしてください。

7.バッテリ アース コードを端子から外し、ビニール テープ等をまいておいてください。また、格納中バッテリは1ヶ月に一回完全充電してください。

8.駐車ブレーキをロックして、雨のかからない風通しの良い乾燥した場所に本機を水平にして格納してください。

9.エンジン スイッチ キーを抜いてください。

⚠注意

本機にカバーをかけて格納するときは、エンジン、排気系が完全に冷えてから行ってください。火災の原因になります。

故　障　の　と　き　は

本機の調子が悪いときは下記の項目を点検し、処置をしてください。
処置をとっても、直らない場合はむやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をお受けください。

1.スタータが回転しないときは

- ブレーキ ペダルを踏み込んでいますか。 →ブレーキ ペダルを完全に踏み込んでから、エンジン スイッチを"始動"にしてください。
- バッテリ端子部がゆるんでいたり腐蝕していませんか。 →端子部を清掃し、確実に取付けてください。（73頁参照）
- ヒューズが切れていませんか。 →新しいヒューズと交換してください。（74頁参照）
- バッテリが放電していませんか。 →バッテリを充電してください。

2.スタータが回転してもエンジンが始動しないときは

- ガソリンはありますか。 →補給してください。（41頁参照）
- 始動手順が間違っていませんか。 →正しい始動手順でやり通してください。（45頁参照）

3.変速レバーが動かないときは

- ブレーキ ペダルを踏んでいませんか。 →ブレーキ ペダルを解除してください。ブレーキ ペダルを踏んでいると、変速レバーは動きません。

4.変速レバーを操作しても本機が動かないときは

- ニュートラル リリース ピンが押し込まれていませんか。 →ニュートラル リリース ピンを引き出してください。（31頁参照）
- 変速機オイルが不足していませんか。 →変速機オイルを点検してください。（42頁参照）

5.エンジンの力が出ないときは

- エアクリーナのろ過部が目づまりしていませんか。 →ろ過部を清掃してください。（70頁参照）

6.ブレーキが片効きするときは

- 各タイヤの空気圧が不均等ではありませんか。 →各タイヤの空気圧を規定値にしてください。（38頁参照）

7.ハンドルが重いときは

- 各タイヤの空気圧が不足していませんか。 →各タイヤの空気圧を規定値にしてください。（38頁参照）

8.油圧リフト レバーを操作してもロータリが上昇・下降しないときは

- エンジン スイッチが〝停止〟になっていませんか。 →エンジン スイッチを〝運転〟にしてください。
- ロータリに草や泥が大量についていませんか。 →ロータリを清掃してください。
- バッテリの液量が少なくなっていませんか。 →バッテリの液量をチェックしてください。液量が少ない場合は、補給を行ってください。 (72頁参照)

故障の修理

お買いあげ販売店へお申しつけください。

主　要　諸　元

〈本機〉

名称		FJ900	
型式		ホンダ FJ900	
区分		K	N
エンジン	名称	GX270	
	形式	空冷4サイクル傾斜形ガソリン(OHV)	
	シリンダ数	1気筒	
	総排気量	270cm^3	
	最大出力／回転速度	6.6kW(9PS)／3,600rpm	
	出力／回転速度	4.8kW(6.5PS)／3,400rpm	
	シリンダ内径×行程	77mm×58mm	
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン	
	始動方式	セルモータ式	
	潤滑方式	強制潤滑式	
	冷却方式	空冷	
	バッテリ容量	32A19RT(12V30AH)	
機体寸法	全長	1,775mm	
	全幅	810mm	
	全高	1,120mm	
	軸距	930mm	
	最低地上高	170mm	
輪距	前輪	600mm	
	後輪	650mm	
タイヤサイズ	前輪	4.00－7－2PR(A250)	
	後輪	6－12－2PR(AR－2)	
重量(装備)		270kg	
PTO軸	定格回転速度	1,310rpm	
	軸寸法	JIS INV. スプライン17×15×1.0mm	
かじ取り方式		ピニオン＆セクタギヤ	
変速方式		油圧式無段変速方式	
変速段式		前進無段／後進無段	
駆動方式		2輪駆動	
制動装置		機械式湿式多板方式	
安全鑑定型式名		ホンダFJ900	
安全鑑定番号		20059	

※・この諸元は予告なく変更することがあります。

主　要　諸　元

<作業機(ロータリ)>（Kタイプ）

装着方式	2点リンク
駆動方式	センタドライブ
耕幅	900mm
全長	560mm<注1>
全高	710mm<注1>
全幅	990mm<注1>
重量〔整備〕	75kg
耕うん爪の種類	No. 10 R. L各14本
爪半径	170mm
爪軸回転方向	正転／逆転 同時
爪軸回転速度	257rpm<注2>

<注1> 作業機(ロータリ)を耕うん爪と尾ソリで自立させた状態での寸法です。

<注2> 爪軸回転速度はエンジン回転速度3,400rpmのときの回転速度です。

※・この諸元は予告なく変更することがあります。

メ　モ

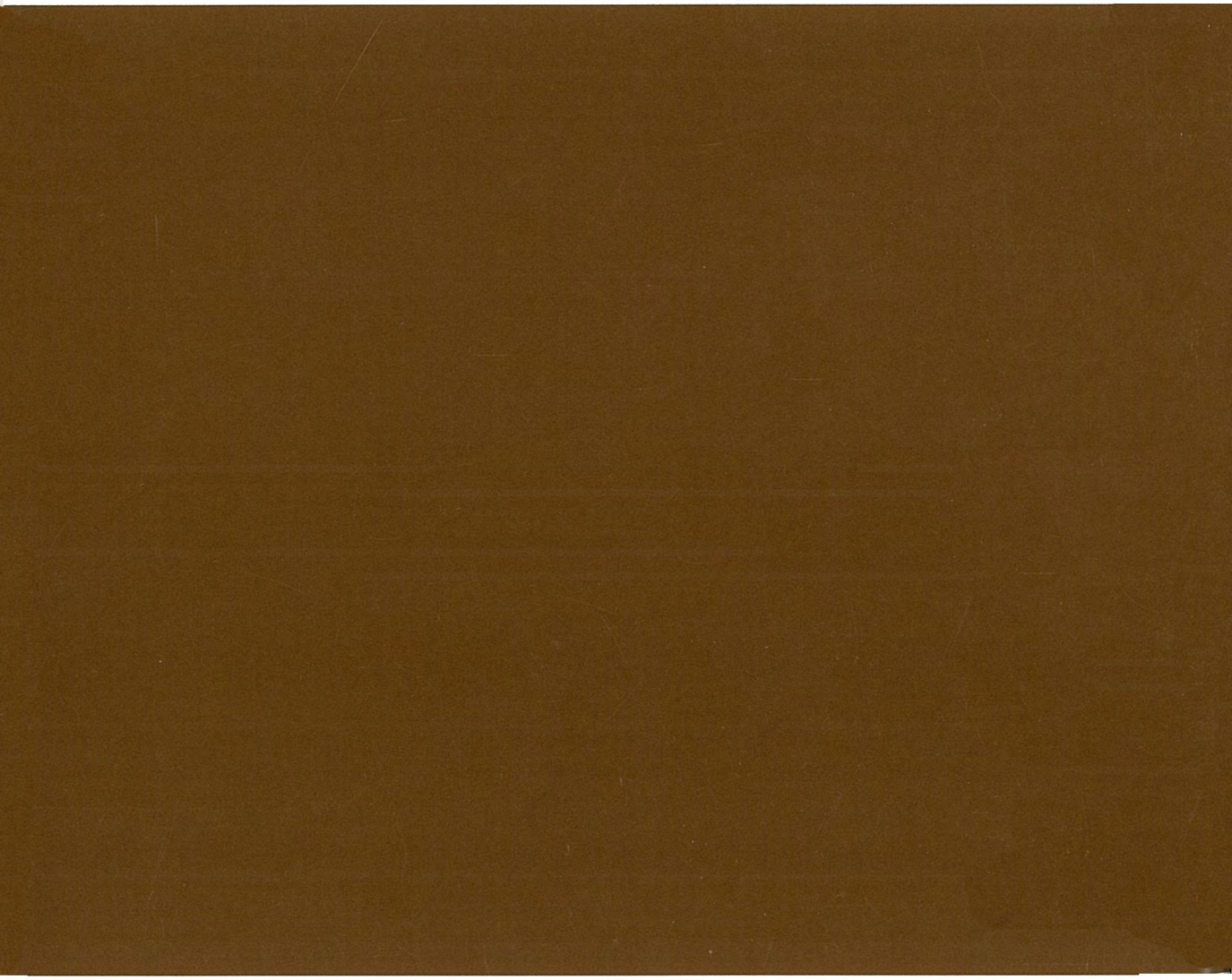
メ　モ

この商品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後12年といたします。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、**お買いあげいただいた販売店**へお申しつけください。

HONDA

The Power of Dreams



30792602
00X30-792-6021

K1
Ⓢ Ⓞ 100.2001.07
© 2001 本田技研工業株式会社